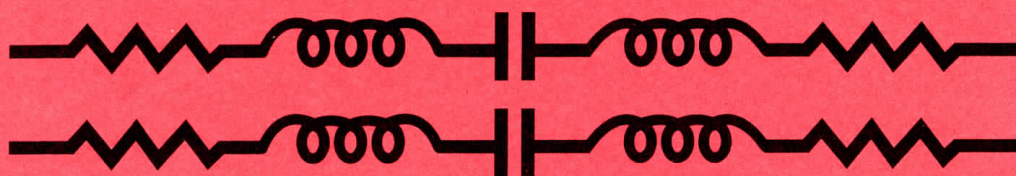


岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

第 60 号

2014 年 3 月 発行



目 次

会長挨拶	会長 柏葉安兵衛	1
特集 きたかみ第60号に寄せて	巻 頭 言 阿部 源祐	2
	各支部から 東京支部 澤藤 隆一	4
	仙台支部 齊藤 健	5
	盛岡支部 簀福 寛	6
	科会の歩み 太田原 功	7
退職した先生からの寄稿	藤原 民也	16
	山田 弘	18
	谷口 宏	20
電気電子工学コースの近況	電気電子工学コース長 長田 洋	22
情報システム工学コースの近況	情報システム工学コース長 安倍 正人	23
岡田元会長を偲んで	山崎 時男	24
	小野寺瑞穂	25
草刈賞 第10回までの歩み		26
第10回（平成24年度）草刈賞受賞者		27
《支部だより》平成25年度東京支部報告	田中 健二	29
平成25年度仙台支部報告	佐々木良治	30
平成25年度盛岡支部報告	簀福 寛	31
平成25年度電気電子情報科会総会		32
平成25年度電気電子情報科会総会議事録		33
平成25年度電気電子情報科会役員名簿		33
平成24年度決算書		34
平成25年度予算書		34
総会添付資料		35
平成25年度電気電子・情報システム工学科の構成員名簿		36
平成25年 年表		37
岩手大学電気電子情報科会会則		39
寄稿“地球は丸かった”	伊藤 稜威	40
トピックス・編集後記		42
平成26年度総会並びに懇親会開催のご案内		裏紙

ご 挨拶

会長 柏葉安兵衛（昭和38年電気卒）



会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

今年も会誌「きたかみ 60 号」をお届けできることを嬉しく思います。会誌は会員相互そして会員と母校とを結ぶ重要な絆です。昭和 17 年（1942 年）1 月 1 日に本会が創設され、翌月 2 月に創刊号が発行されて以来、今号で 60 号を迎えることができました。一口に 60 号といいますが、大戦後の極端な物不足の時代には粗末なわら半紙（本物の藁半紙）に編集担当者がガリ版を切って謄写版印刷で発行したり、資金が底をつきやむなくしばらく休刊あるいは隔年発行という時代もあり、大先輩の非常なご苦労が見られます。今日こうして毎年発行で

きますのは、世の中が平和で会員各位のご支援によるものと考えます。60 号を特集号とし、阿部源祐氏（高等工業 1 回、S16 卒）から「巻頭言」をご寄稿いただきました。創刊当時の意気込みとご苦労が目に見えるようです。また、会の歴史をご理解頂くため、創刊号から 59 号までの会誌の内容を太田原功氏（S30 卒）に簡潔にまとめていただき、掲載しました。

昨年の 3 月、母校電気電子・情報システム工学科では谷口宏先生（電子 1 回、S45 卒）、藤原民也先生、山田弘先生、厚井裕司先生が定年によりご退職されました。また、定年ではございませんが、鈴木正幸先生もご退職なさいました。先生方の教えを受けた沢山の会員は各地で大いに活躍しています。長年のご指導に感謝申し上げ、先生方のますますのご健勝をお祈り致します。谷口、藤原、山田各先生から本号にご寄稿頂いております。

また、東京支部長が昨年 10 月に澤藤隆一氏（電気 S47 卒）から田中健二氏（電子 S49 卒）に交代になりました。澤藤氏は 9 年間にわたって東京支部をまとめ、発展させてきました。特に本会創立 70 周年記念事業の実施に当たっては、東京開催をお引き受けいただいて大成功に導いて下さったほか、ホームページの充実を行っていただきました。これまでのご苦労に御礼申し上げますとともに、引き続きご協力をお願いいたします。

昨年、元会長の岡田整八氏（S18 卒）がお亡くなりになりました。岡田元会長は昭和 33 年 6 月から 36 年 4 月まで会長をお務めになられ、その間に初めて盛岡以外（昭和 35 年、東京）で総会を開催しました。山崎時男氏（S24 卒）と小野寺瑞穂氏（S29 卒）から寄せられた追悼文をご覧ください。また、元仙台支部長砂子田融氏（S17 卒）も 12 月にお亡くなりになりました。お二人のご功績に感謝申し上げますと共に、謹んでご冥福をお祈り致します。

東日本大震災から 3 年たとうとしています。被災地では復興が進み始めましたが、確かな復興には長い時間を要すると思われます。復興が先細りすることなく、一日も早く達成されることを願っています。

毎回のことで大変心苦しいのですが、会費の納入にご協力をお願い申し上げます。本会は新入学生の入会金と皆様からいただく年会費により運営されています。平成 15 年の総会で、卒業後 10 年経過する毎に過去 10 年分の年会費として 1 万円を納入して頂くことになり、翌 16 年に一回目の納入をお願いしております。それから 10 年たち、再びお願いするところです。出費多端のおり誠に恐縮でございますが、同封した黄色の別紙をご参考に、ご納入下さるようお願い致します。

盛岡は会員の皆様が青春時代を過ごした地です。自然環境の良さは誰しも認めることと思います。このような環境の中で同じ学舎で過ごし、今なお同窓の絆を保てることはすばらしいことだと考えます。母校の発展と共に本会も発展していきたいものです。

会員各位のご健勝とご発展を心からお祈り申し上げます。

電気科会スタートダッシュを支えた友の思い出

阿 部 源 祐（昭和 16 年高工電気卒）

会誌 60 号の発刊おめでとうございます。

「きたかみ」60 号記念号の巻頭言の依頼を受けてから構想を種々考えて見たがやはり脳裡に浮かぶのは富士岳君の思い出でした。

さあその扉を開きましょう

1

私達が入学したのは昭和 14 年 6 月です。すぐ夏休みでした。9 月の新学期が始まると富士君はすぐ卒業記念アルバムの作製を提案し賛同を得てアルバム委員会を立ち上げたのです。すぐにライト写真館と契約し行事の有るたびに撮影を開始しました。

そのおかげで三年間の私たちの行動記録が完成したのです。

しかしその後完成までは苦労の連続でした。大阪の製作会社で火災が発生し原版が消失するところでした。火災から逃れてホッとしておいたら今度は経費不足との連絡が入ってきたのです。会員は卒業していないしページの縮減をするだけしか手段がなくなり編成の修正をする事になり富士君と二人で作業を行いました。大分遅れて完成し会員に発送出来た時は二人で乾杯しました。5 科の内卒業記念アルバムを作ったのは電気科だけでした。

その貴重なアルバムも科会で保存しておいた物は校舎移転の時なくなったようです。

私のは空襲で焼失しました。私達の大事な記録を再生して科会に残したいと考慮中です。

2

三年生の二学期になるや富士君は学校当局に同窓会の設立について伺いをたてました。

しかし当局は同窓会の設立の予定はないとの事でした。その後草刈先生から同じ教室で学び同じ実験器具を手にした人達が卒業と同時にそのまま散り散りになってゆくことは惜しいではないかとの話をうけて富士君が中心となってアルバム委員会のメンバーで電気科会設立委員会を発足させ寒い下宿のコタツに入りながら夜の更けるのも忘れて会則を作りあげたのが 11 月初旬でした。それを大衆討議にかけて決定し創立を昭和 17 年 1 月 1 日としたのです。そして発会式を湯瀬温泉で盛大に行うために資金を積み立てたのです。

しかし 12 月 8 日の開戦となったので発会式を中止することを決定し資金は陸海軍に献金したのです。この時のリードも富士君でした。

3

昭和 16 年 12 月 26 日学習を三ヶ月短縮して卒業し戦地にまた任地へと各地にと向かいました。残念なことに盛岡には一人も就職しませんでした。仙台には東北大学四名国鉄一名の五名でした。昭和 17 年 1 月 1 日科会は輝かしいスタートを切ったのです。

富士君は東北支部長に就任し活躍することになったのです。そして東北支部で本部代行を行うことに決定したのです。これからが富士君の

活躍舞台でした。早速着手したのが会誌の発行でした。会則により一年に 3 回発行しなければならないので直ちに着手したのです。それで富士君は先ず会誌について基本方針を決定し、会誌のスタイルについて下記の通り決定しました。

1. 「左綴じ左開き横書」

これは電気科会誌は単なる親睦雑誌ではなく会員の研究成果発表する場とし技術論文集をめざしてゆきたいとの富士君の強い考えからでした。

2. 表紙のデザインは簡単な RLC の組合せにしてその同調回路から電気科会の協調と発展を表現したのです。

3. 8 号から編集者の考えで文学的スタイルに変更されたのです。

「右綴じ右開き縦書」となり表紙も文学的になったのです。

しかし昭和 50 年代から会誌の内容が研究報告等が多くなり編集委員から創刊号時代に戻したいとの意見が出てきて総会の了解をとり創刊号時代のスタイルに復活したのです。

まさに富士君の考えは当時としては新しい考えでした。

4

いよいよ会誌の発刊です。2 月になると入隊予定者は軍隊に行ってしまうので 2 月 1 日に発刊するように努力しましたが間に合わないで 2 月 25 日になったのです。

それから直ちに第 2 号の編集準備に入ったのです。続いて第 3 号と順調に第 5 号まで発刊したのです。これまでほとんど編集など富士君一人で活躍したのです。

第 6 号から関東支部と交互に担当することにしたのですが空襲が激しくなり休刊する事になったのです。

5

富士君の活躍は会誌の発刊だけではありません。学生が仙台に来るとその歓迎会の開催、入隊者が仙台に来ると壮行会の開催と科会の協調親睦発展のためなら努力を惜しまない人柄でした。

6

会誌 60 号記念誌を発行するまで発展した科会はスタート時に 17 ヶ月で 5 号まで発行し科会発展の基礎を作った富士君の功績は大きいと思われます。

平成 21 年に科会創立七十周年記念祝賀会が東京で開催されることが決定した時は二人で喜びあいました。科会の思い出を話し合いながら乾杯しようと約束したのです。

しかし平成 22 年 10 月に彼の訃報が病床の私に届いたのです。しかも彼が天国の旅に出発した 9 月 22 日は私が大腸の手術をした日です。幸い私は快復し祝賀会にも参加し草刈賞も頂戴することができました。しかし彼こそ草刈賞の第一候補だった筈です。真に残念でたまりません。

「俺は天国に行くけどお前は生きて科会の発展に努力せよ」と言っている声が聞こえてくるような気がします。高齢者ですが彼の意志を継いで科会の発展に尽くしたいと考えるこの頃です。

ご冥福を祈りつつ筆をおきます。さようなら富士君天国でも科会のために頑張ってください！！

各支部から

きたかみのネット化を

東京支部相談役 澤 藤 隆 一（昭和 47 年電気卒）



2013 年 10 月の東京支部大会で、9 年務めた支部長を退任しました。きたかみ 50 号は草刈先生ご生誕 100 年記念号でした。私は 51 号から 59 号まで『支部だより』を書いてきました。今年は田中支部長が書いて

いますのでお役御免になったと思っていたら、本稿が割り当てられて 10 号連続の寄稿となりました。

2002 年に副支部長を拝命した時の東京支部大会は、科会総会の東京開催と併せて霞が関ビル 33 F の東海大学校友会館で行われました。当時支部長は寺井正行氏（S41）で、副支部長は工藤英彦氏（S45）と山田均氏（S47）、会計が山内利明氏（S61）、事務局が飛世政和氏（S44）とサポート久保田博氏（S40）という体制でした。副支部長が 3 名となって、これは次なる布石だったようです。翌 2003 年は仙台で草刈先生ご生誕 100 年記念の追悼供養と懇親会があり、この模様がきたかみ 50 号を飾ったのであります。翌 2004 年に私は支部長になり、きたかみ 51 号に自分としては初めての『支部だより』を書いたわけです。

さてここからが主題なのですが、実は会誌きたかみをネットで見られるということです。文字メディアを紙で見るか、ネットで見ると、徐々にネット化して行くでしょうが、完全にペーパーレスになるのは随分先でしょう。例えば『東京支部だより』は東京支部ホームページの「サイトマップ」から「会誌掲載原稿」を選べばずっと見られます。自分の写真を見て、若かったなあ感慨ひとしおです。同じく「サイトマップ」から「リンク」を選べば、きたかみ 49 号、50 号、51 号の 3 号だけ実験的に大学のサーバーの一角を借りて収納されているところにリンクされています。51 号には私のはじめての支部だよりも載っています。ネットの良いところは、

探す手間の少ないことです。またどこに居ても見られることです。50 号を記念してのこの試みは素晴らしい！個人情報部分は削除して編集し直されて載っています。この試みは残念ながらこの 3 号だけで終わっています。労力面で無理があったのでしょうか。しかしよくあるように、ユーザ ID とパスワード発行によって PDF で見せることも可能と思います。

私が管理する東京支部のホームページでは、2002 年頃からの科会本部や東京支部、一祐会、そして傘下の東京地区の各支部の総会の模様などが見られます。IUEEITOKYO で検索下さい。インターネット元年は恐らく 1996 年頃でしょう。急速にホームページ開設が増えました。もう 18 年も経っています。今や文字メディアは紙からネットへ移行しようとしています。ただし、これを本格的にやろうとすれば、会員の抵抗も大きいと聞きます。ネットアレルギーの類、ネット不信でしょうか。しかし、印刷費や送料などの手間や経費を考えれば、いつかは決断すべきです。10 号前に既に先進的な試みが為され、今見ても感嘆します。もう一度検討すべきです。

東京支部は 2 年に一度の大会開催でしたが、2005 年に佐藤淳先生の叙勲祝賀会をアルカディア市ヶ谷で行い、2006 年の東京支部大会と科会総会を同所で行ったときに支部規約を改定して毎年開催にしました。通常の支部大会の他 2008 年には太田原先生の叙勲祝賀会、2011 年の科会創立 70 周年祝賀会、2012 年の「卒業生・修了生と学長との懇談会」などビッグイベント目白押し、この間にセミナーなども行って、特に 2010 年の久保田先生「岩手大学 46 年間」のセミナーは盛況でした。

途中在京盛岡広域産業人会の創立など、岩手大学と盛岡市、そして盛岡広域 8 市町村の地域連携に引っ張り出され、2002 年の副支部長拝命から 11 年間、走り詰めでした。その足跡がホームページにびっしり載っております。

各支部から

60 号に寄せて

仙台支部相談役 齊 藤 健（昭和 38 年電気卒）

科会が発足して 72 年が過ぎ会報が 60 号と聞くと、つくづく時の流れを実感します。

この会報 60 号の歴史を手持ちの資料で振り返って見ますと、科会発足時の会の目的が会員の親睦を図り、緊密な連絡を取り合い電気工学の知識の交換を主としたこともあってか、会報の年 3 回の発行が会則に明記されていて会報発行が科会運営の中心になっていたことがうかがえます。

しかし、科会発足時は太平洋戦争勃発間もないことでもあり戦局の進展とともに諸般の事情で会報発行もだいぶご苦労があったようで、1943 年 6 月（第 5 号）で一時中断せざるを得なかったようです。

戦後 1946 年、1949 年に発行され、1951 年 6 月から きたかみ（8 号）として定期的に発行され今日に至ります。まさに科会 72 年と会報 60 号の数の差が科会創生期の先輩諸氏のご苦労を物語っていて改めて当時の関係者に感謝と敬意を表するものです。

2004 年の国立大学法人化により大学同窓会活動に新たな視点が加えられ、大学の学生就職活動、地域社会連携活動、産業界連携活動等の支援に同窓会ネットワークを評価しようというもので、このような動きに対応して 2009 年に各学部同窓会がまとまり、会員相互の親睦、岩手大学の発展への寄与、地域社会への貢献を目的として、岩手大学同窓会連合会が設立され、同窓会活動は新しい局面を迎えました。連合会の設立ですでに大学との共催での「卒業生・修了生と学長との懇談会」の各地での開催や震災被災学生支援のための「岩手大学連合会義援金」活動など多くのイベントが展開され今後の活動に大いに期待したいものです。

国立大学改革プランに全学挙げて取り組んでいる今日、同窓会活動での大学支援は一学部一学科の枠を超え全学的であればあるほどその効果は大きいことは論をまたないといえます。

一学科の同窓会としてスタートした岩手大学電気電子情報科会と言うまでもなくこのような同窓会活動の基礎となるものです。しかし現今の科会活動は本部総会や各地での支部総会やイベントへの参加者の数などからみても必ずしも多くの会員の積極的関心を集めているとはいえないのではないのでしょうか。一般的な社会風潮として「集団」での活動から「個」の活動が好まれるようになってきていること、個人情報保護法により会員諸兄の消息把握が十分に出来ないこと、また若い会員諸君では時間的余裕がないことなどなど理由は多々ありそうですが、なんとか多くの会員諸兄が積極的に各種行事などに参加し同窓会活動が活性化するための改善に向けて努力したいものです。

改善策の一つは会員への提供情報量を豊富にすることですが、例えば会報の発行周期を科会発足時と同様に年複数回とするなどの案も考えられます。しかしそれには発行体制、印刷・製本費・配布費用などの経済面で多くの解決すべき問題があります。経済面では会報を始めすべての情報をホームページなどを使って全面電子化（Web 版、メール版）も考えられますが会員諸兄の御意向を十二分に把握する必要があります。

現状では誰にとっても確実な情報入手手段として定期刊行の紙ベースの会報が果たす役割は大きく、今後も母校と会員相互の絆を深め科会活動をより実りあるものとし、さらには同窓会連合会を通じての大学支援に参画していくためにもその基礎として「きたかみ」を、さらに充実させていきたいものです。そのためには科会の経済的基盤がしっかりしていかなければなりません。聞き及ぶところによりますと会費納入率がおもわしくないとのこと。今後の科会の発展と会報の充実を願って賢明な諸兄の御協力を呼び掛ける次第です。

各支部から

盛岡の去年今年

盛岡支部長 旗 福 寛（昭和 38 年電気卒）

2011 年、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災から 3 年が経ちます。津波によるガレキはほぼ片付いたようです。また、港湾や漁業施設の復旧も進んでいるようですが岩手県内ではまだ 30 万人もの方々が仮設住宅等の仮住まい生活をしているそうです。復興町づくり計画では高台集団移転・住宅再建とか復興公営住宅に入居するかとか、被災された方々の生活基盤が固まるのにはまだまだ時間がかかりそうです。私事です。昭和 20 年代の末、小学校の 5 年、6 年の夏休に宮古市磯鶏の海浜学校（宮古海員養成所）に行きました。このとき花巻・釜石まわりで磯鶏の駅に着いたような気がします。現在、J R 山田線の宮古―釜石間は津波で流されたままの状態です。童謡「汽車ぽっぽ」では「汽車 汽車 ポッポ ポッポ シュッポ シュッポ シュッポ ポッポ 煙をはいて シュッポ シュッポ シュッポ ポッポ 行こうよ 行こうよ どこまでも あかろい 希望が 待っている 走れ 走れ 走れ がんばって がんばって 走れよ」J R 山田線宮古―釜石間の復旧をお願いします。

平成 25 年は岩手県が全国的な話題になったことがいくつかありました。

NHK の朝ドラの「あまちゃん」です。ドラマのストーリーは東京出身の女子高生が三陸で海女をやりながら、東京でアイドルを目指す人情喜劇で、熱狂的なファンを生んだようです。ロケ地となった岩手県久慈市小袖海岸には観光客が殺到。私も町内会の旅行で小袖海岸まで行って見てきましたが普通車がすれ違うのがやっとという道路で小袖海岸で行き止まり、その先は北山崎のような絶壁でした。海岸の食堂で北三陸名物の雲丹弁当とまめぶ汁、何のことはないごった煮汁でした。さらにドラマでよく使われた「じえ じえ じえ」という言葉が流行語大賞に選ばれました。盛岡あたりでは「じあ じあ じあ」という人もあります。また、じいさんがばあさんと呼ぶとき「じえ」「じえ」と声をか

けたりします。「じえ」は便利な言葉です。さらに「あまちゃん」の出演者達は紅白歌合戦にも出演してドラマでの歌を歌いました。わたくしはこの朝ドラを見てはおりませんが軍歌調のテーマ音楽は知っております。

さらに紅白歌合戦には盛岡市玉山区出身の民謡歌手が出演して「南部蟬しぐれ」を熱唱しました。

「南部 盛岡 栗石 思えば遠いふるさとよ 夢がこぼれた都会の谷間 呼んでみたって 山彦ばかり…（以下略）」の名調子が全国に流れました。

さて、テレビでは次の大河ドラマとして「黒田官兵衛」を宣伝しておりました。黒田官兵衛の陣中着用兜、「銀白檀塗合子形兜」（「合子」はお吸物碗のような蓋のあるいれもの）が長い間盛岡市中央公民館に展示してありました。現在は岩手公園（盛岡城）内にできた盛岡歴史文化館（旧県立図書館の場所、新図書館は盛岡駅に隣接して開館）に移されたそうです。が今現在、官兵衛人気で全国各地を巡回展示中とか。歴史文化館には複製品が飾ってあるらしいです。

官兵衛の兜が盛岡にある理由は、日本三大お家騒動の一つ黒田騒動（他の二つは伊達騒動と加賀騒動）の首謀者、黒田藩筆頭家老、栗山大膳が江戸幕府から「盛岡藩お預け」という罰を受けました。大膳が盛岡に下るとき父親栗山利安が官兵衛から直接賜った兜を持参し、それが盛岡藩に献上されました。盛岡藩は罪人である大膳に屋敷を与え丁重にもてなしたそうです。大膳のお墓は盛岡グランドホテルの裏手にあります。

以上、平成 25 年から 26 年にかけての盛岡の話題を書いてみました。

「きたかみ」60 号記念の内容にふさわしくないかもしれませんが、お許し下さい。

会誌「きたかみ」に見る 電気電子情報科会の歩みと関連する主要事項

★印：科会会誌「きたかみ」 誌名を省略して刊号のみを掲載 ☆印：標題区分
○印：一祐会会誌「北杜」 会長交代と特集号を主とした掲載誌を抽出
◎印：科会・一祐会に関連する重要事項
年号省略表現：昭和→S 平成→H

【お断り】創刊号から第59号までの目次を「著者名を中心に抜粋」して掲載、議事録等の例年掲載項目は割愛しました。「寄稿標題を割愛もしくは簡略表現した」箇所が随所にあります。

【参 考】岩手大学電気科会創立50周年記念誌“炎”に掲載されている“会誌「きたかみ」に見る電気科会50年の歩み(P213～P262)”に創刊号から第39号迄の目次と抜粋記事を紹介しているので併せてご覧下さい。なお、阿部源祐氏(専1)のご指摘によって「きたかみ」第5号の発行年月日を修正しました。

◎盛岡高工電気科会発足 昭和17年1月1日：会長 草刈遜(電気科長)、普通会员32名(終身会費5円)、特別会員5名(終身会費・年俸の5/1000)

◎盛岡高等工業学校同窓会発足 昭和17年9月16日：会長 石原富松校長、 副会長 玉城良男、入会金5円・会費10円、爾後10年毎に15円または終身会費50円

★創刊号「盛岡高工電気科会誌」(S17.02.25、横書き左綴じ) 巻頭言：ジョホールバル占領の日・会長草刈遜 ☆電気科会成立す ☆卒業生諸兄を送るの辭：一戸英敏 ☆東北支部通信 ☆寄稿(現地報告等)：佐藤又三郎、横澤文四郎、富士岳(2編)、佐々木俊二、膝館章行、志村馨、中島豪、岩泉光俊、阿部源祐 ☆会員名簿、応召者名簿 ☆盛岡高工電気科会暫定規則

★第2号(S17.05.21編集後記日付) 巻頭言：入江泰 ☆寄稿(現地報告等)：石岡国雄、富士岳、福田久、中村辰雄、澤亮、住吉正美、西坂敬二、木村元一、志村馨、渋谷雅三、増田豊、佐々木俊二、鶴澤正治、小林弘 ☆支部通信：東北支部・関東支部・関西支部

★号外(S17.08.20) 専2卒業生就職先

★第3号(S17.11.30) 巻頭言：草刈遜 ☆母校の私設無線局について：小山内照親 ☆位相幾何学とは何か：富士岳 ☆寄稿・現地報告等：鎌田智治(2編)、小菅啓靖、横澤文四郎、鶴澤正治、住吉正美、矢吹進彦 ☆風の便り ☆支部通信：東北支部・関東支部

★第4号(S18.03.04 編集後記日付) 扉に代えて：戦時下の会員諸氏を思う・懇談会開催案内 ☆課題と回答：小泉又彦 ☆青少年工員と我々：齋藤新 ☆随想：菱川一夫 ☆流舟：矢吹進彦 ☆短信：膝館章行、住吉正美、小野堅太郎、福田久、渋谷雅三、小泉又彦、關谷道郎、坂牛正隆、高木壽夫、石川博、中村辰雄、澤藤弘、森口博信、武中孝雄、木村富治、石垣清雄、赤坂耕造、平河孝雄、石岡国雄、蓮見義郎、砂子田融、秋山敬、菅原有三、鈴木稔 ☆風の便り ☆支部通信：関東支部(西塚)、関西支部(小泉) ☆投稿の葉：富士岳・木村誠 ☆編集後記：木村誠

★第5号(S18.06.30 奥付なし) 故上村雄二君の追憶：富士岳・小林弘 ☆無線による写真電送の概念：砂子田融 ☆キルヒホッフの法則：富士岳 ☆偶感：小林弘 ☆随想：鈴木稔、短信：藤田久造、蓮見義郎、高木壽夫、佐藤信一、入間正輔、能野和泰、久慈平吉、小山内照親、小林良司、藤崎次郎、西塚禮一、南彰、中村辰雄、桑折二郎、佐々木俊治、木村元一、岩泉光俊、齋藤新、澤亮、志村馨、小泉又彦 ☆支部通信：東北、関東

○北杜創刊号(S18.12.30) 縦書き右綴じ、名簿併用版

◎盛岡高等工業学校同窓会総会(S21.02.23) 会長 安東幸二郎(校長) 副会長 玉城良男

★第6号(S21.12.15 終戦後初の刊行) 扉に代えて(新憲法発布の朝を迎う)：草刈遜 ☆亡き友に捧ぐ：阿部長一(26名の物故会員氏名紹介) ☆会則改正について：阿部源祐 ☆電気科職員便り ☆風の便り：第2回生～4回生 ☆杜の都だより ☆学園だより ☆本部通信 ☆東北支部通信

★第7号(S24.03.31 手書きガリ版刷り) 序に代えて：草刈遜 ☆電気科職員消息 ☆会員名簿：特別会員、専1～専9、第3学年在籍者(11名)

◎岩手大学発足(S24.5.31)：3学部構成 農学部・学生定員150名／年、工学部・学生定員120名／年、学芸学部・学生定員120名／年(2年課程併設360名／年)

○北杜第2号(S24.06.20) 創立10周年記念特集号、名簿併用版

○北杜第3号(S25.03.09) 会長を理事長と改称(S24.7.29役員会)、田口恒智氏理事長就任

★第8号(S26.11.10) 第7号までの横書き左綴じを改めて縦書き右綴じとした 会誌名称を「きたかみ」と表示 ☆小さな現実：高山進 ☆教室より：草刈遜

☆先生方の寄稿：入江泰・鎌田徳美・後藤良・一戸英敏・久保田哲郎 ☆盛岡工専電気科会会則
☆専2～専9・大1の動向紹介 ☆電気科近況 ☆電気科会の発足とその将来：鈴木辰三（編者註）設立当時の
状況については第11号阿部源祐氏の寄稿文も参照されたい ☆職場便り：鈴木亮平

◎盛岡高工電気科会を岩手大学電気科会と改称(昭和26年度電気科会総会、阿部源祐氏第2代会長に就任)
◎盛岡高等工業学校同窓会を岩手大学工学部一祐会と改称(S28.06.13総会)

★第9号(S30.03.20) 母校の近況：草刈遜 ☆雑感：松本憲吾・佐藤利三郎 ☆北海道便り：久慈平吉
☆青森支部報告：新山 ☆無題：富樫泰規 ☆人の世と云うもの：関谷道郎 ☆職場報告：荒屋電話
中継所・新谷善三郎・萩原製作所・萩原富久二、東北電力岩手支店給電指令所・大畑正巳、給電係・菱川和於、
通信所・小澤甚一郎、普及係・鈴木辰三、送電係・藤谷無縫

★第10号(S32.03.15) 会長挨拶：小沢甚一郎氏第3代会長就任(S30.6.25～)
☆電気科会に思う(会長退任挨拶・阿部源祐) ☆母校の近況：草刈遜 ☆同級生の動向：専1～専10、大
1～大4) ☆支部だより(北海道、盛岡、山形) ☆米国における黒人問題：片方善治 ☆極微の世界：
沼田六七八 ☆しゃれ談議：Y・K生 ☆寄稿：高山進・片方善治・太田原功 ☆会員だより：小澤甚一郎・
新山治三郎・稲垣良郎・草刈先生への年賀状(21名紹介) ☆ニュース：電子顕微鏡設置(沼田六七八氏兼
務)、S32年度入試倍率機械工学科8.8倍・電気工学科7.2倍、岩手大学全学用自動電話交換機新設

★第11号(S33.03.05) 小澤会長挨拶 ☆電気科会の歩み(科会創立から会誌10号発行までの歩み)：阿部源
祐 ☆職場だより：盛鉄会員 ☆会員だより：草刈・大内・鎌田3先生への年賀状よる紹介 ☆雲流るる果
てに：工藤祐一氏(専3)の消息についての情報(渡邊豊氏～小澤甚一郎氏～草刈先生) ☆懇親会報告：東京支
部・本部・福島支部・青森支部

★第12号(S34.03.18) 岩手大学電気工学科の歩み：草刈遜 ☆随筆：岡田清八氏第4代会長就任(33.6.1
～) ☆年賀状による会員だより(24名) ☆北海道だより：稲垣良郎 ☆アメリカ便り：呉栄宗
☆請負かたぎ：高山進 ☆請負渡世・商売人の巻 ☆支部一覧表、東京支部会則、盛岡支部会則
☆ニュース：草刈先生「同期機に関する研究」で学位取得、応用化学科新設(S34年度)、工学専攻科設置(S33
年度)

★第13号(S35.05.30) 第7号から13号まで、手書きガリ版印刷 ☆ご挨拶：草刈先生第3代工学部長に就任
☆電気工学科の近況：大内三千三 ☆むだい：鎌田徳美 ☆癖を二つ失った男：草刈遜 ☆北海道だ
より：杉谷博司・渡邊武信・笹原寿一郎 ☆原子力による東北振興：富田弘平 ☆九州と盛岡との関係：
宮田克己 ☆どんばら巻：岡田清八 ☆学窓を巣立つに当り：宮岡日出勝 ☆母校教職員(23名の)近況
☆科会あれこれ(太田原功)：草刈先生工学部長ご就任、山崎さん退官・山崎電気商会設立、盛岡市内大雪のため
全バス路線運休で大混乱 ☆東京総会に出席して：会長岡田清八(S35年度総会を東京都中野区水野会館で開
催・盛岡以外で初の総会開催)

★第14号(S37.03.15) さたかみに寄す：草刈遜 ☆電気科会長に就任して：第5代会長佐藤源美氏
(36.4.28～) ☆寸描：岩手泰山 ☆まきストーブ：阿部長一 ☆請負気質：高山進 ☆通心概論：菅野
鉄也 ☆鎌田先生還暦祝賀会 ☆想い出：専5卒F生 ☆岩手県営発電：八重樫啓一 ☆配電電圧6KV昇
圧：鈴木辰三 ☆新興製作所の沿革(と社内同窓生紹介)：藤尾文三 ☆NHKの職場近況：瀬野尾徹夫
☆交流電線線設備：高橋一夫 ☆母校教職員の近況：草刈先生学部長職退任し学科に帰任、山家恒一氏
新任(S35.04～仙台電波高校卒)など28名の動向 ☆先生方へのお便りから：57名の短信
☆会員の職場(東北大学)訪問記：太田原功 ☆電気工学科の近況：大内三千三

★第15号(S38.07.15) 電気工学科の近況：草刈遜 ☆ご無沙汰に代えて：藤原昭二
☆電気科の職員として：山家恒一(39年1月 日本コロンビア仙台営業所へ転職) ☆岩手放送と共に：菊池昭
雄 ☆TVカメラを担当して：安田堅治 ☆学内教職員の動き(新任)：佐々木経夫(S37.09.01)、相原敏之
(S37.09.01)、S38電気卒・旗福寛と尾鷲健一(S38.04.01)、宮沢徳雄(S37.09.01～38.03.30) ☆内地研
究員：太田原功(38.5.10～東北大学) ☆S37科会総会(仙台市東一番丁電電公社東一寮) 草刈先生、大内先
生、藤田先生、富樫さん、沼田さん、佐藤源美会長、一戸副会長、庶務太田原、会計飯岡、藤田清吉理事参加
☆会員消息二、三：Y・K

★第16号(S40.03.20) 電気工学科の研究報告(冒頭に草刈先生還暦祝写真掲載)：草刈遜
☆電気工学と私：草刈遜 ☆会員の皆さんへ：高木三郎氏第6代会長就任(38.8.3～)
☆チョークのたわごと：鎌田徳美 ☆電子計算機入出力装置：佐々木信夫 ☆印刷電信機の自動中継：
西川汎 ☆印刷電信の電々公社・国際電々における利用：伊藤松雄 ☆沖縄見聞記・漢テレの話：佐々木
信夫 ☆雑感—10年前と今—：太田原功 ☆思い出：鎌田智治 ☆創刊号：村田徹 ☆昭和39年度卒
業生に送る送辞：片倉邦彦 ☆東北大学に分会結成、茨城地区に電気科会を主体にした同窓会誕生 ☆先
生方と科会事務局へのお便り(43件) ☆新任教職員：百足恒彦助教、佐川吉男講師、助手：関享士郎・吉
田弘・佐々木雄介、庄子幸男教務員、小野寺電子事務員、技術員：沼田徳重・高橋勝彦・吉田功・加藤昭二
☆退職：大内三千三教授・山家恒一技術員 ☆編集後記：飯岡主輔

★第17号(S41.03.20) ☆電気工学科の近況：草刈遜(電子工学科S41年度開設決定、4講座構
成、学生定員40名) ☆会員の皆さんへ：中村忠男氏第7代会長就任(40.5.22～) ☆ペン
のたわごと：鎌田徳美 ☆みちのくへの夢：富田弘平 ☆電力局開設十周年：八重樫啓一
☆カナダ便り：一戸英敏先生からの手紙 ☆強電実験室だより：沼田六七八 ☆研究室の近
況：電力・電気機器・電力応用・通信・電力応用・電子材料計測・事務室と工場 ☆FACOM231設置

★第18号(S42.09.30) 「鎌田徳美先生ご退官特集号」ご近影と年譜 ☆特集号執筆者等：
最終講義・鎌田徳美、中村忠男、草刈遜、針生俊夫、沼田六七八、佐々木喜八郎、小澤甚一郎、

相馬重信、志田純一、よせがき集、太田原功、旗福寛、釀金者名簿 ☆新装なった電気・電子工学科写真
 ☆電気・電子両科の新館建設：入江泰 ☆新館雑感：富樫泰規 ☆新校舎から巣立って：小坂勝子
 ☆東京総会に出席して：太田原功 ☆東京で2回目の科会総会開催(S41.4.2)品川駅前東京観光ホテル、
 120名参加 ☆トピックス：草刈先生工学部長に再選、鎌田先生消防庁長官賞 ☆カナダ雑記：一戸英敏
 (S40.11～S41.11トロント大学)

★阿部長一氏第8代会長就任(S42.12.1～)：財政難のため、就任中「きたかみ」の発行なし

◎「草刈遜先生の思いで」：故草刈遜先生追悼記念会・S44.8.1電気科会発刊
 第4代・第7代岩手大学工学部長、S43.7.5ご逝去、S43.7.15岩手大学工学部葬

★第19号(S46.01.15) 御挨拶：高木三郎氏第9代会長就任(S45.9.4～) ☆電気系学科の近況：入江泰
 ☆「かり」のたわごと：鎌田徳美 ☆職場便り：東京芝浦電気株式会社・鶴沢正治、日立製作所・高木寿
 夫、日本電信電話公社・新谷善三郎、通商産業省・富田弘平、警察通信・荒谷秀夫、鹿島建設・葛西堅二、東
 京電力・仲本和弘、中道研究所・高井新吉、日本ビクターグループ・高橋広、国鉄・神次郎、防衛庁・原子
 好隆、松下通信工業・吉田登美男、日本無線・鶴田惇、岩手県企業局・菊池吉美、三菱電機・風呂功、谷村新
 興・橋本孝夫、安藤電気・辻博之、岩手日報社・宮手敏雄 ☆邂逅：小笠原芳雄 ☆見学旅行寸描：太田
 原功 ☆42～45年度総会議事録：休刊中の「きたかみ」19号発刊案を旗福理事より提案して了承、
 41～44年度収支決算書

★第20号(S46.11.15) 会長ご挨拶 ☆土居先生を送る：入江泰 ☆似て非なるもの：鎌田徳美
 ☆職場だより：東北大学・佐藤利三郎、教師・西坂敬二、日本鋼管・富士岳、皿の水の乾いた河童・小田島武
 士、教育雑感・小山内照親、学校職場・中村辰雄、航空雑記・赤林巖、東武鉄道・川島俊也、教員生活・佐久
 間俊忍、横河電機・高木淳一、建設省・長澤志郎、大蔵省印刷局・国安章二、栃木県教員・杉本秀、大日
 日本電線・矢吹隆彦、北海道電力・工藤淳一、電源開発・小川昭、山武ハネウエル・中山勝、三立電機・小西令
 助、NHK・瀬野尾徹夫、北海道放送・古館利幸、情報産業・川村伶、大興電機・萬八郎、IBC・井上隆志、日
 立電子サービス・寺井正行、日本電気・高橋正美 ☆ドイツ雑感：佐藤淳 ☆専1クラス会：阿部源祐

◎岩手大学電気科会三十周年記念アルバム(S47.03.31発刊)

★第21号(S47.12) ご挨拶：山崎時男氏第10代会長就任(S47.5.20～) ☆電気系学科の近況：大森忠夫
 ☆下北の旅：鎌田徳美 ☆思い出のまゝ：安達竹之進 ☆汽船通という仕事：沼田六七八
 ☆思い出特集：卒業30周年記念同級会・一戸英敏、三回生の巻(付：盛岡高工出身海軍予備学生戦死者名簿)・
 小澤甚一郎、工専という学校・佐久間俊忍、工場見学道中記・千葉智行、思い出・佐々木佑二、学生時代の雑
 感・天阪博、在学中の思い出・瀬尾泰二郎、十回生のクラス会・柴田隆昭、一つの悔い・梅良之、女子学生第1
 号の述懐・徳田勝子、我々大学十八回生・山田朝雄、思い出・平山典明、七十年安保反対闘争・秋田晋一
 ☆電気科会創立30周年記念アルバム残部案内
 ☆クラス会：専2卒30周年記念15名参加、大2卒20周年記念12名参加、大10卒10周年記念18名参加

◎岩手大学工学部 一祐会30年史(S48.05.22発刊)

★第22号(S48.12) 「入江泰先生ご退官記念特集号」 執筆者等：山崎時男、最終講義・一戸英敏、XYZ、
 富田弘平、坂久友夫、佐々木喜八郎、古館利幸、手塚欽也、池田隆夫、高橋剛、大西駿、及川弘、よせがき集、
 佐藤淳、太田原功、岡田整八、大森忠夫、佐藤利三郎 ☆電気系学科の近況：志田純一 ☆卒業生の皆さ
 ん：佐藤淳 ☆いろいろなこと：佐々木和彦 ☆変な女の子のはなし：柳橋好子 ☆小さな緊張感：佐
 藤房江 ☆鎌田先生に渋沢賞、湧井先生茨城大学へ転勤
 ☆同級会だより：専3・岡田整八、大1・佐々木喜八郎、大6・飯岡圭輔

★第23号(S50.01) 「大学紹介特集号」 ご挨拶：山本辰吾氏第11代会長就任(S49.6.23～)
 ☆電気系学科の近況：岩田純蔵 ☆電気系学科の将来像：大森忠夫 ☆顧問教官に推されて：志田純一
 ☆電気科昔話「我楽多のたわごと」：鎌田徳美 ☆学生気質今昔：佐藤淳 ☆教師像今昔：佐々木喜八郎
 ☆施設紹介：工学部の現況・一戸英敏、岩手大学の概況・三浦守、大学施設の変貌ぶり・井上隆志、大学と
 その環境・歳弘健 ☆講座紹介：電気基礎・杉田慶一郎、電力工学、電力応用・志田純一、電気通信・太田
 原功、電子基礎・斉藤弘、電子管及び電子回路・岩田純蔵、電子材料及び計測・一戸英敏、電子応用・横山隆
 三、情報処理・照井武彦、共通部門 ☆学生の眼：奥田康雄・佐藤竜男・萩生田延寿
 ☆草刈先生7回忌：山崎時男 ☆鎌田先生「渋沢賞」受賞：菅原順次 ☆クラス会：専8・富永昌稔・高橋
 昭夫、大2・小野寺瑞穂

★第24号(S50.12) 山本会長挨拶 ☆電気工学科の近況：佐藤淳 ☆情報工学科の誕生：大森忠夫
 ☆新任教授の抱負：杉田慶一郎・菅野文友・藤田勝美 ☆重力波の話：佐藤利三郎・千葉二郎
 ☆北上川の清流化：歳弘健 ☆続カナダ雑記：一戸英敏 ☆和の再建：小澤甚一郎 ☆富樫さんご苦労
 さま：佐々木経夫 ☆大森忠夫教授工学部長就任 ☆新任教職員：藤田勝美教授、島田孟助教授、藤原民
 也助手、互野健二教務員、近藤和生教務員、千葉茂樹技術員 ☆トピックス：HITAC8250設置決定、工学
 部正門2対から1対に(通路拡幅)

○北杜第24号(S51.03.01) S50年4月情報工学科新設 共通学科を含む10学科体制となる

★第25号(S52.02) 山本会長挨拶 ☆電気系三学科の近況・電子工学科創設十周年：一戸英敏
 ☆「大森先生ご退官」記事：佐藤淳・大森忠夫・田山典男 ☆新任教授の抱負：太田原功・
 池田俊夫 ☆職場だより：盛岡工業高校・太田圭一、岩手放送・菊池昭雄 ☆寄稿：あるいは
 身辺雑録・富田弘平、ともだち・山崎時男、十周年記念事業・岩田純蔵 ☆工場見学記：土肥
 誠一郎・丸山幸一・柏葉安兵衛 ☆交流記：メダカの学校同窓会・佐藤淳、専2同級会・一戸英

敏、大十一回生の集い・旗福寛、電子回路講座・小野知厚、太田原教授を囲む会・YZ生

◎人文社会科学部創設(S52.6、学生定員200名/年)、人社部同窓会「七友会」創設(S56.3)

★第26号(S53.03) 「故入江泰先生追悼特集号」 ☆山本会長挨拶：故入江先生追悼特集号にあたって
☆ご遺影と年譜 ☆特集号執筆者名：高宮田鶴子、大森忠夫、佐藤淳、志田純一、佐藤利三郎、小澤甚一郎
☆電気系学科の近況：杉田慶一郎 ☆情報工学科が4年目を迎えます：菅野文友 ☆岩手大学人文社会科学
部について：岩田純蔵 ☆職場だより：東北電力本店・小島左京、澤藤電機・泉寿雄、富士通・安藤勉
☆同窓愛による産学共同研究：小澤甚一郎 ☆旅：松村正昇 ☆東南アジア留学者の集い：ン・カーリオン
☆ブラジルから岩手大学に留学して：小向オスカル ☆情報工学科第一回生の道：水野正道
☆暗い：S・E生 ☆盛岡の住人となりて：金山哲雄 ☆スポットライト：電気科会総会in東京(学士会
館)・東京支部、専2卒35周年同級会・赤坂耕造、佐藤利三郎氏日本学術会議会員に当選

○北杜第26号(S53.03.01、電気科会誌「きたかみ」と同年月・同発刊号となる)

★第27号(S54.03) 「故鎌田徳美先生追悼特集号」 ご遺影と年譜 ☆特集号に寄せて：熊谷昇氏第12
代会長就任(S53.6.24～) ☆特集号執筆者名等：太田原功、熊谷昇、志田純一、岡田整八、鎌田敏子、沼
田六七八、阿部源祐、入間正輔、小澤甚一郎、相馬重信、佐々木喜八郎、関享士郎、佐藤英靖 ☆電気系学
科の近況：岩田純蔵 ☆工学部の近況：太田原功 ☆職場だより：国鉄を退職して・熊谷昇、国鉄工作
部門・横田安令、国鉄武蔵野・鷹觜克夫、日本電装・松田典朗、松下電子・高萩和男 ☆学生生活をふり返っ
て：田沢広道 ☆雑感：吉尾はる美 ☆スポットライト：東京支部大会・富田弘平、仙台支部だより・大
時、専2同級会・一戸英敏、専7同級会・安保寅丙、大6同級会、ゴルフ会・小松栄松、卒後十五周年記念同級
会・大11幹事、一戸先生還暦祝賀会、電気科会見学会(葛根田発電所)・旗福寛

◎写真帳・岩手大学工学部一祐会の40年「ポプラは風にささやいた」(S54.05.01発刊)

○北杜第28号(S55.03.01) S54年度一祐会総会で代表者名称を理事長から会長に会則変更
(田口理事長は会長として代表を継続)

★第28号(S55.03) 熊谷会長御挨拶 ☆電気系3学科の近況：菅野文友 ☆資源化学科の新設：河上
忠男 ☆電気科会創立の思い出と将来への提言：阿部源祐 ☆私の「きたかみ」：佐藤源美 ☆80年
代岩手の展望：菊池昭雄 ☆県営発電の現況：岩手県企業局 ☆職場だより：三菱電機・沢亮、きょうこ
の頃・南次郎、科学技術分野の未知へ挑む・佐藤隆三、神経生理学者としての歩み・佐藤匡、コンベヤベルト
屋・鈴木泰彦 ☆新任教職員：平塚篤・吉岡良雄・山田弘・大杉三夫・小山内孝徳・亀田正昭・那須川徳
博・星勝徳 ☆大内先生のご近況：佐藤淳 ☆工場見学旅行記：三浦守・佐々木誠 ☆スポットライ
ト：専2同級会・一戸英敏、専3同級会・岡田整八、専4ヤジキタ会・鶴沢克己、仙台支部だより、盛岡支部だ
より、太田原先生の壮行会、岩大合唱団日本一、岩大ラグビー部全国優勝、最近の就職状況
☆告知板：照井・小川両先生ご転出、三輪忍先生のご近況、太田原先生海外出張

★第29号(S56.03) 熊谷会長ご挨拶 ☆電気3学科の近況：佐藤淳 ☆「藤田勝美先生を偲んで
(S55.3.31ご逝去)」：藤田美穂子、安藤八郎、照井武彦、八重樫純樹 ☆回想三十五年：沼田六七八、随想：
田中博 ☆元会長による随筆：高木三郎、中村忠男 ☆不來方雑誌：境田耕 ☆外遊雑感：太田原功
☆職場だより：共和熱処理・伊藤勉、盛岡市役所・福田健次 ☆支部だより：東京支部・富田弘平、仙台支
部 ☆工場見学記：旗福寛、沼田徳重、佐々木久江、岡山透、鈴木邦彦 ☆同級会だより：専2・赤坂耕
三、専3・市村博、岡田整八、専9・一条昭夫、大14・田山典男 ☆新任教職員：渡辺孝志助手、大川知助
手、佐藤利子事務官、小向道彦教務員、菅原和久教務員、渡邊正芳教務員、栗田宏明技官
☆定年ご退官：沼田六七八氏、田中博氏 ☆「きたかみ」第1号～第20号を3分冊に合本

★第30号(S57.03) 熊谷会長ご挨拶 ☆電気3学科の近況：一戸英敏 ☆学生部から見た岩手大学：杉田
慶一郎 ☆東北新幹線の紹介：新幹線元年と電力関係設備・工藤正孝、信号通信設備・菅原秀夫、車両・菊
田秀一、啄木字体の盛岡駅名・工藤正孝 ☆公開講座を実施して：佐藤淳 ☆電気系新カリキュラムの作
成：志田純一 ☆束の間のサウジアラビア：小笠原芳雄 ☆外遊雑感一車社会あれこれ：太田原功
☆ソ連の旅：池田俊夫・馬場守 ☆北アメリカ散漫記：岡英夫 ☆生命の色彩：山田功 ☆支部だよ
り：東京、盛岡 ☆同級会だより：専2田中徳蔵、専7萬藤五郎、大4千葉敏躬 ☆工場見学記：平塚篤・
佐藤利子・川村卓良・吉田雅之 ☆募金のお願いと会費納入のお願い

★第31号(S58.03) ご挨拶：副会長八重樫啓一、ご挨拶：前仙台支部長佐藤利三郎 ☆「故大内三千三先
生を偲んで(S57.9.15ご逝去)」：ご遺影と年譜、熊谷昇、佐藤淳、大内澄子、関孝雄、田中春美、竹田昭平、
松岡俊司、岩館政蔵、旗福寛 ☆「故熊谷昇会長を偲んで(S57.11.20ご逝去)」：岩田純蔵、佐々木喜八郎
☆電気系三学科の近況：太田原功 ☆最近の職場・技術トピックス：大森忠夫、星彰、伊藤奨、武田雅美、
佐藤良司、中野敏男、後村光彦、佐藤保、藤原昭二、田代良二、神次郎、竹内幸雄、高橋登、松岡俊司、仙台
春生 ☆アメリカの電気通信事情：梅良之 ☆仙台歳時記：安達竹之進 ☆郵便あれこれ：阿部源祐
☆仙台支部だより：岡本康之、在仙会員だより ☆同級会だより：専2一戸英敏、専3岡田整八、専6佐藤純
一、専7府金宏成、専9渡邊喜久雄、大3星彰、大10川口一夫 ☆工場見学記：関享士郎、渡邊
章、早坂久義 ☆新任：三輪譲二講師、渡辺義夫助手、教務職員：高橋勝弘・坂本司・桑原孝子、
武蔵哲夫技官

★第32号(S59.03) 本号より横書き左綴じ「大学紹介特集号」 ☆池野九平氏第13代会長就
任(S58.6.11～) ☆電気系3学科の近況：志田純一 ☆盛岡のまち：関村伊三郎 ☆岩手
大学の現況：三浦守 ☆電気系内の紹介：電気基礎・杉田慶一郎、電力・佐藤淳、電力応用・
関享士郎、電気通信・久保田賢二、電子基礎・池田俊夫、電子材料及び計測・旗福寛、電子管及
び電子回路・岩田純蔵他、電子応用・斉藤弘、基礎情報・田山典男、情報組織・平塚篤ほか、

情報機器・吉岡良雄、応用情報・渡邊孝志、共通部門・編集委員会 ☆今の学生気質に思う：佐藤淳
☆寄稿「次郎」：山田功 ☆記事：東京支部・田中春美、仙台支部・竹内幸雄・後村光彦、専2同級会・木村誠、陵三会40周年紀行、大2同級会・小野寺瑞穂

★第33号(S60.01) 「一戸英敏先生ご退官記念特集号」ご略歴とご近影 ☆池野会長あいさつ
☆特集号に寄せて：岩田純蔵 ☆最終講義「磁性材料40年の進歩」：一戸英敏 ☆特集記事執筆者：佐藤淳・村井英三・砂子田融・遊座宏・一戸英敏・旗福寛 ☆電気系3学科の近況：池田俊夫 ☆電気科会総会に招かれて：志田純一 ☆支部だより：東京、仙台 ☆同級会だより：専2・高木三郎、陵三会・斎藤宗三郎、専7・仲村恵祐、専8・松村正昇 ☆会員だより：永沼誠昭 ☆お知らせ：佐藤利三郎氏東北学院大学工学部長就任・科学技術庁長官賞他3件受賞、長岐芳郎氏・川島信氏梶井米寿記念賞受賞 ☆S59年度科会総会(第31回)を東京大神宮会館で実施153名参加 ☆科会総会実施総覧(第1回～第31回)

★第34号(S60.12) 安保寅丙氏第14代会長就任(S60.6.15～) ☆特集「電気系三学科の軌跡」：遺書・福島正次、想い出・府金宏成、思い出・小林栄松、同僚寮生活・柴田隆昭、我が学生生活・岡本康之、女ひとり・柳橋好子、マイコンと学生・高宮宏一郎、電気工学科北分室の頃まで・佐藤淳 ☆特集「放送局裏ばなし」：瀬野尾徹夫・鈴木靖夫・大岩洋和・井上隆志・大嶋修一郎・遠藤俊昭・高橋孝 ☆翔んでいる“いわて”21世紀へGO! ☆春風秋雨：一戸英敏 ☆電力会社通信の草分け：小澤甚一郎 ☆日本電気通信事情：菅原光宏 ☆電気系近況報告：横山隆一 ☆仙台支部総会：本柳茂 ☆同級会だより：専1阿部源祐、専2佐藤信一、専8一ノ渡義己 ☆情報工学科卒業生にも電気主任技術者申請資格認可

★第35号(S61.12) ご挨拶：針生俊夫氏第15代会長就任(S61.6.14～) ☆電気系近況報告：杉田慶一郎
☆「元会長安保寅丙氏を偲んで(S60.12.31ご逝去)」：在盛専7回一同 ☆21世紀への飛躍をめざす岩手県「県政発展計画の推進を中心に」：佐々木浩 ☆岩手県庁特集：県営発電とともに30年・佐々木喜八郎、岩手県企業局について・歳弘健・八重樫啓一・関村伊三郎・伊藤昌孝、防災行政無線・府金宏成、一つの出来ごと・相馬重信、工業試験場・南幅留男、下水道事業・野崎明裕、地熱水事業・瀬川隆 ☆春風秋雨：一戸英敏 ☆アメリカ西部駆け巡り：太田原功 ☆岩手大学に赴任して：森田章 ☆支部だより：仙台・本柳茂、東京・吉田登美男 ☆同級会だより：専2回の記、専3・市村博 ☆告知板：工学部創立50周年記念事業・岩田純蔵、還暦を迎える佐藤淳先生・山田弘、志田純一先生還暦祝賀会・関享士郎

★第36号(S62.12) 会長あいさつ：針生俊夫 ☆電気系三学科の近況：岩田純蔵
☆山本辰吾元会長を偲んで(S62.2.19ご逝去)：菊池昭雄・相馬重信 ☆電気学会賞受賞：星彰 ☆2年間のボストン生活：山田弘 ☆流星(上・中)：市村博 ☆ハッペ：山田功 ☆1998年冬季オリンピックを盛岡で：境田耕 ☆新任教官の自己紹介：坂和正敏、千葉則茂、鎌田真人、田中旭 ☆支部だより：東京支部総会、仙台支部総会兼本部総会：佐藤晃

★第37号(S63.11) ご挨拶：佐々木浩氏第16代会長就任(S63.6.11～) ☆電気系三学科の近況：太田原功
☆森田章先生(S61.04～63.03)最終講義 ☆一年間のアメリカ生活：藤原民也 ☆日本初の水力発電：伊藤彰八 ☆津軽海峡線建設：竹内幸雄 ☆流星(下)：市村博 ☆就職後の一年：田中井康晴 ☆てんやわんや：斎藤真美 ☆93アルペンスキー選手権大会：佐々木浩 ☆さんさの季節に：熊谷博 ☆新任教官自己紹介：森田清三 ☆告知板：50周年記念館工事進行中・佐藤七郎、仙台支部総会・佐藤晃・角田信一、専2の集い・砂子田融、専3の集い・小澤甚一郎

★第38号(H01.12) 会長挨拶：佐々木浩 ☆電気系三学科の近況：佐藤淳 ☆盛岡市制100周年記念：野崎明裕・佐々木喜八郎 ☆岩手の冬季スポーツ：関村伊三郎 ☆創立50周年記念式典と一祐会館：佐藤七郎 ☆発電所集中監視制御システム：伊藤昌孝 ☆SNG：安田堅治 ☆トロント交遊録：岡英夫 ☆落下傘降下：小澤甚一郎 ☆花巻空港：千枝泰航 ☆卒業後の一年半：豊間根明 ☆大学の四年半：佐々木浩之 ☆新任教官自己紹介：能登宏七、菅原康弘、松川倫明 ☆告知板：仙台支部だより・佐藤晃・畠山寧、東京支部総会開催、盛岡専2の集り・赤坂耕造、専3クラス会・小澤甚一郎、専7同級会・相馬重信、専8同級会・曾根昭午

○北杜第37号(H01.03) 岩手大学工学部創立50周年記念特集号(前編)
○北杜第38号(H02.03) 岩手大学工学部創立50周年記念特集号(後編)
○北杜第39号(H03.03) 村井貞允氏を一祐会会長に選任(H02.05.19総会、第4代会長)
第3代会長田口恒智氏はS24.07理事長就任、S54会長と改称、41年間にわたって一祐会代表を務めた

★第39号(H03.05) 「岩田純蔵先生ご退官特集号」ご略歴とご近影 ☆佐々木浩会長ご挨拶
☆特集号執筆者：最終講義・岩田純蔵、志田純一、佐藤清忠、南幅留男、岡英夫 ☆電気系学科報告：横山隆三 ☆電気科会総会in東京並びに東京支部総会：佐々木信夫、御礼・庶務斎藤弘 ☆仙台支部総会 ☆草刈先生の墓参：阿部源祐 ☆同級会だより：専1、専2、専5

○北杜第40号(H04.03.01) 村井会長挨拶「…東京の各科の支部を一般の支部と同等に扱うとの決定に則り…」を基に、北杜第41号で「電気科会東京支部を含む6支部誕生」紹介(編者註：各科同窓会およびその支部を、申し出によって「一祐会支部扱いする」ことを平成3年度総会で申し合わせた)。

★第40号(H05.03) 「佐藤・志田・百足三先生ご退官記念特集号」 ☆ご挨拶：会長佐々木浩
☆ご退官記念特集号に寄せて：太田原功 ☆「佐藤先生特集」執筆者：最終講義・佐藤淳、藤村泰造、伊藤彰八、山田弘、加藤昭二、佐々木淳、菅原智明、旗福寛 ☆「志田先生特集」執筆者：最終講義・志田純一、菊池昭雄、関享士郎、菊地新司、熊谷義行、田代良二、恒川佳隆 ☆「百足先生特集」執筆者：吉田英夫、久保田賢二、斎藤斎、栗田宏明、多田隆一、沼田健彦 ☆一戸先生叙勲記事(勲三等旭日中綬章)：山崎時男、八重樫啓一 ☆佐々木四郎先生追悼記事(H4.8.16ご逝去)：喜安善一、池野九平 ☆電気科会創立50周年記念事業経過報告：阿部源祐、小野寺瑞穂 ☆電気3学科の近況：杉田慶一郎 ☆仙台支部総会報告

☆同級会：専1卒業50周年クラス会、専2同級会、専3めぐり会

◎岩手大学電気科会創立50周年記念誌“炎”発刊(H04.10.01)

○北杜第41号(H05.03.01) 会員への公募により「一祐会章」を決定し北杜の表紙絵として公示
6支部誕生：東工会(工作機械卒生)、電気科会東京支部、東京金属科会、きたかみ会(採鉱・鉱山・資源の3
学科卒生)、みよし会(応用化学科・資源化学科卒生)、花巻支部

○北杜第42号(H06.03)「一祐会創立50周年記念特集号」 記念式典、一祐会旗制定
☆村井会長挨拶(抜粋)：母校への協力費として校内整備費20万円、科会補助費588千円、博士課程設置活動費
20万円等を支出。

○北杜第43号(H07.03) 坂入専司氏を第5代一祐会会長に選任(H6総会、H22.11.07ご逝去)

★第41号(H07.03) 「杉田慶一郎先生ご退官記念特集号」 ご挨拶：会長佐々木浩
ご退官特集号に寄せて：太田原功 ☆ご略歴・ご近影 ☆特集執筆者：最終講義・杉田慶一郎、島田孟、
藤原氏也、板垣稔、菅公男、谷崎嘉治、樋口和也 ☆佐々木四郎先生三回忌墓参 ☆電気系3学科の近況：
関享士郎 ☆支部報告：仙台・盛岡 ☆クラス会：専2北茨城五浦の集い、専2総会・定山溪温泉、専4の
集い、専7松島同期会、札幌電六回 ☆情報工学科増築棟竣工

★第42号(H08.03) ☆電気電子工学科の近況：馬場守 ☆情報工学科の近況：高浪五男
☆大学院博士課程設置について(平成8年4月の設置決断)：千葉則茂 ☆クラス会報告：専1、専3陵三会、
専2、専7、専8 ☆科会事務局体制の導入(H6科会役員会報告)：庶務会計担当専任の学外卒業生1名(薄謝支
給)を、2学科から1名ずつ選出された会員が支援する新体制を導入する

○北杜第45号(H09.03) 佐々木浩氏を一祐会会長に選任(平成8年度総会、第6代会長)
佐々木浩会長急逝のため(H9.4.7)、平成10年度一祐会総会まで岡田整八氏(副会長)が会長代行

★第43号(H09.03.20) ご挨拶：細川哲男氏第17代会長就任(H08.06.08～)
☆電気電子工学科の近況：佐藤照幸 ☆情報工学科の近況：横山隆三 ☆大学院博士課程に進学して：大
島修三、大坊眞洋、小原徳昭、叶榮彬、安宗善史、田野崎真司、村岡一信、雷莉萍、マグサルジャブ エルデ
ネチメゲ、依田拓、福島央之、菊地司 ☆支部だより：仙台支部総会、盛岡支部見学会、東京支部総会
☆総会(H08.06.08)：東京都東海大学校友会館で開催 ☆クラス会だより：専3、専7、専8、専9初クラス会

★第44号(H10.03.20) 会長挨拶 ☆「太田原功先生ご退官記念特集」 ☆ご退官にあたって：関享士郎
☆特集記事執筆者：最終講義要旨・太田原功、小野寺瑞穂、三浦守、田山典男、佐々木政子、沼田徳重、菊池
幸吉、小森芳則、四戸弘道、久保田博、寺井正行、豊島房江、萩生田孝志、高橋健一、栗田良美、小笠原祐
治、鎌田眞人、葛巻恵美、久保田賢二
☆「故佐々木浩前電気科会会長追悼特集(S63.06～H08.06会長、H9.4.7ご逝去)」：科会創立50周年記念祝賀会
会長挨拶・佐々木浩(記念誌“炎”より転載)、佐々木浩前会長を偲んで・太田原功、ご遺影とご略歴、無私の
トップリダー・岡田整八、追悼座談会・電気科会有志、思い出・専7回有志 ☆電気工学科の近況：道上修
☆情報工学科の近況：新貝銀蔵 ☆佐藤利三郎氏(専1)勲3等旭日中綬章受章 ☆安達先生三回忌の集い：
仙台支部有志 ☆クラス会：専2、専3、大学14 ☆支部報告：仙台、盛岡

★第45号(H11.02.15) ご挨拶：太田原功氏第18代会長就任(H10.06.13～)
☆「佐藤照幸教授ご退官特集」御写真と御経歴 特集記事執筆者：最終講義・佐藤照幸、渡部政行、板垣
稔、樋口和也、畠山友則、長澤篤、村上幸正 ☆長野オリンピックを終えて：数藤崇 ☆電気電子工学科
の近況：田山典男 ☆情報工学科の近況：千葉則茂 ☆クラス会：専8、専3、専2、S42、S38
☆支部だより：仙台支部、東京支部、仙台・東京両支部役員名簿 ☆「電気科会あり方等検討委員会」経過
報告(答申)

★第46号(H12.03.01) ☆情報工学科の近況：渡邊孝志 ☆電気電子工学科の近況：藤原氏也
☆支部だより：盛岡、仙台 ☆総会(H11.06.12仙台市五つ橋会館)：「会の名称変更」 ☆H10役員会経過
報告・科会のあり方に関する情報工学科の意見

◎岩手大学電気科会を岩手大学電気電子情報科会と改称(平成11年度総会、H11.06.12)

○北杜第47号(H11.03.01) 高橋維一郎氏を一祐会会長に選任
(平成10年度総会、第7代会長、H21.07.16ご逝去)

★第47号(H13.03.01) 会長あいさつ ☆「池田俊夫先生ご退官記念記事」写真と御略歴：S51～H7岩手
大学教授、H7～H12一関工業高等専門学校校長 ☆無事退官の御礼：池田俊夫、池田俊夫先生御退官記念同
窓会 ☆電気電子工学科の近況：道上修 ☆情報工学科の近況：安部正人 ☆結城秀朗氏(S41)「タイ国総
理大臣賞」受賞 ☆支部だより：東京、仙台、盛岡

★第48号(H14.03.01) 会長挨拶、副会長挨拶(3人制導入)：関享士郎・南幅留男・鳥谷部達雄
☆三浦守先生ご退官(S60.01～H13.03)：はこだて未来大学教授就任(H13.04.01～)
☆電気電子工学科の近況：田山典男 ☆情報システム工学科の近況：西谷泰昭
☆仙台支部総会

★第49号(H15.03.01) 関享士郎先生・斎藤弘先生・菊池孝先生・熱海宏信先生ご退官
☆「関享士郎先生御退官記念記事」ご近影とご略歴、退官の御挨拶、御退官記念祝賀会

☆「齋藤弘先生御退官記念記事」ご近影とご略歴、退官後も元気にしております：齋藤弘
 ☆電気電子工学科の近況：山田弘 ☆情報システム工学科の近況：千葉則茂
 ☆支部だより：仙台、東京 ☆H14総会議事録等：H14.06.01東海大学校友会館で開催

○北杜第51号(H15.03.01) 一祐会創立60周年記念特集号
 関本善則氏(S30鉦)を一祐会会長に選任(平成14年度総会、第8代会長)

◎草刈遜先生ご生誕100年記念事業実行委員会から岩手大学へ胸像寄贈、工学部玄関ホールに安置(H15.6.27除幕)、第4代&第7代工学部長、S43.7.5工学部長在職中ご逝去

★第50号(H16.03.01) 「草刈先生ご生誕100年記念特集号」 ☆胸像等記念行事写真(冒頭4頁)
 ☆会長ご挨拶 ☆草刈先生を偲びつつ：実行委員長阿部源祐 ☆ご遺影ご経歴
 ☆記念事業に寄せて：岩手大学長平山健一 ☆先生を偲んで：工学部長森邦夫 ☆記念事業の概要
 ☆胸像除幕式 ☆追悼供養(H15.06.29) ☆追悼法要遺族代表挨拶：草刈正之 ☆思い出を語る会第1部・第2部、遺族代表挨拶：岡本康之 ☆草刈賞創設のお知らせ ☆事業決算書 ☆募金活動：細川哲男
 ☆思い出と胸像建立：佐藤利三郎 ☆御遺徳を偲ぶ：佐藤淳 ☆仙台記念事業を終えて：千葉智行
 ☆追悼供養の計画と実施：斎藤健 ☆てんやわんや物語：鈴木辰三 ☆胸像製作者吉野毅氏のご紹介：高橋章
 ☆記念事業寄付者名簿 ☆電気電子工学科の近況：柏葉安兵衛 ☆情報工学科の近況：渡邊孝志

★第51号(H17.03.01) 本号よりA4版改版 就任挨拶：佐々木喜八郎氏第19代会長就任(H16.6.12～)
 ☆草刈賞創設のお知らせ、選考要領、第1回受賞者紹介 ☆電気電子工学科の近況：柏葉安兵衛 ☆情報システム工学科の近況：厚井裕司 ☆支部だより：仙台、東京

○北杜第53号(H17.03 本号よりA4版に改版)

★第52号(H18.03.01) 会長挨拶 ☆岩手大学在職の思い出：横山隆三(教授) ☆在職41年の思い出：沼田徳重(技術専門員) ☆草刈賞選考要領、第2回受賞者紹介 ☆叙勲の栄に浴して：佐藤淳(平成17年春の叙勲「瑞宝中綬章」) ☆電気電子工学科の近況：藤原民也 ☆情報システム工学科の近況：安倍正人
 ☆支部だより：仙台、東京、盛岡

★第53号(H19.03.01) 会長挨拶 ☆楽しい思い出の38年間 柏葉安兵衛 ☆電気科会の思い出：旗福寛
 ☆42年をふりかえって：吉田功(技術専門員) ☆草刈賞第3回受賞者紹介と受章者の感想 ☆草刈賞に佐藤淳先生ご寄附 ☆電気電子工学科の近況：山田弘 ☆情報システム工学科の近況：西山清 ☆支部だより：仙台、東京、盛岡 ☆鎌田徳美先生・入江泰先生の思い出を語る会

○北杜第55号(H19.03) 太田原功氏を一祐会会長に選任(平成18年度総会、第9代会長)

★第54号(H20.03) 会長挨拶 ☆在職41年の思い出：相馬孝志(技術専門員) ☆技術専門員定年退職者：板垣稔・菊池新司 ☆草刈賞第4回受賞者 ☆電気電子工学科の近況：田山典男 ☆情報システム工学科の近況：渡邊孝志 ☆支部だより：仙台、東京、盛岡

○北杜第56号(H20.03) 村井貞允 一祐会元会長ご逝去(H19.10.1)

★第55号(H21.03) ご挨拶：柏葉安兵衛氏第20代会長就任(H20.6.14～)「…工学部7学科を5学科に再編、電気電子工学科と情報システム工学科を合併、電気電子・情報システム工学科誕生…」 ☆電気電子工学科の近況：岡英夫 ☆情報システム工学科の近況：千葉則茂 ☆東京支部寄稿：科会設立の理念を見直そう・柴田隆昭、器の話・山田均、39年目のリニアモーター・秋田晋一、レーザを学んで・加瀬貞二
 ☆太田原功先生瑞宝中綬章受勲祝賀会報告：寺井正行 ☆草刈賞第5回受賞者 ☆支部だより：東京、仙台、盛岡 ☆技術専門員退職：藤沼重雄氏・川井研一氏

★第56号(H22.03) 会長挨拶 ☆退職した先生からの寄稿：岩手大学での15年半の一石・道上修、37年間の楽しい思い出・田山典男、在職中の思い出・久保田賢二 ☆電気電子工学コースの近況：藤原民也 ☆情報システム工学コースの近況：安倍正人 ☆H21総会：H21.06.27ハーネル仙台 ☆仙台支部からの寄稿：幻の発会式と幻の会則・阿部源祐、人生は三相応…生涯現役でありたい…小原左武生、技術士資格取得への取り組みについて・田代良二、出会いを大切に・齋藤浩美
 ☆「細川元会長を偲んで(H21.6.19ご逝去)」：弔辞・柏葉会長、追悼文・太田圭一・太田原功
 ☆「小澤元会長を偲んで(H21.12.25ご逝去)」：弔辞・柏葉会長
 ☆「百足先生を偲んで(H20.5.7ご逝去)」：久保田賢二
 ☆草刈賞副賞新設とH31年度から40年度までの草刈賞継続を決定、草刈賞第6回受章者
 ☆支部だより：東京、仙台、盛岡 ☆トピックス：桜の木を母校に寄贈・榊TTK会長梅良之(S42)、著書出版「その人造り＝育児＋教育＋食育はまちがっています！」最上清次郎(S38)

○北杜第58号(H22.03) 高橋維一郎 一祐会元会長ご逝去(H21.7.16)

★第57号(H23.03) 岩手大学電気電子情報科会70周年記念事業のご案内 ☆会長挨拶
 ☆電気電子工学コースの近況：恒川佳隆 ☆情報システム工学コースの近況：安倍正人
 ☆盛岡支部からの寄稿：「ゆいとびあ盛南」旗福寛、「今にして思えば」池野正樹
 ☆小澤元会長を偲んで(H21.12.25ご逝去)：山崎時男
 ☆池田俊夫先生を偲んで(H22.12.17ご逝去)：馬場守 ☆草刈賞第7回受賞者
 ☆支部だより：東京、仙台、盛岡 ☆トピックス：年末年始の大雪で工学部内の桜古木倒れる！

◎H23.3.11 東日本大震災発生：大地震と大津波による大災害が発生すると共に東京電力福島第1原子力発電所の原子燃料溶解事故が併発、H26年1月現在、当該地区の避難生活が継続中

○北杜第59号(H23.03) 渡邊喬氏を一祐会会長に選任(平成22年度総会、第10代会長)
坂入専司(専3)一祐会元会長ご逝去(H22.11.)

◎H23.10.29 電気電子情報科会創立70周年記念式典・記念講演会・祝賀会、東京都千代田区九段北4-2-25 アルカディア市ヶ谷(私学会館)で実施

★第58号(H24.03) 「創立70周年記念特集号」(DVD添付：祝賀会当日の記録と関連資料)

☆創立70周年記念特集カラー写真 ☆会長挨拶 ☆70周年記念事業の概略
☆70周年に寄せて：学長藤井克己、一祐会会長渡邊喬 ☆あの頃：科会顧問 佐藤淳
☆山手線の旅：科会顧問 志田純一 ☆草刈功労賞表彰者紹介(19名)と謝辞 ☆記念講演「岩手大学の62年、そして震災と復興」学長藤井克己 ☆創立70周年記念祝賀会開催のご報告：寺井正行 ☆祝賀会参加者名簿 ☆思い出の歌 歌い継ぐ思い ☆岩手大学工学部に在職して：馬場守 ☆電気電子工学コースの近況：恒川佳隆 ☆情報システム工学コースの近況：西山清 ☆草刈賞第8回受賞者 ☆支部だより：東京、仙台、盛岡 ☆報道現場から「東日本大震災」：宮手敏雄(S44電卒、岩手日報社)

◎一祐会創立70周年記念式典 記念講演会 祝賀会 H24.09.16 ホテルホリタン盛岡ニューイング

◎一祐会創立70周年記念誌(H24.09、祝賀会参加者に配布) ☆写真紹介(工学部正門の今昔、1号館～7号館、付属研究棟、同袍寮) ☆思い出集

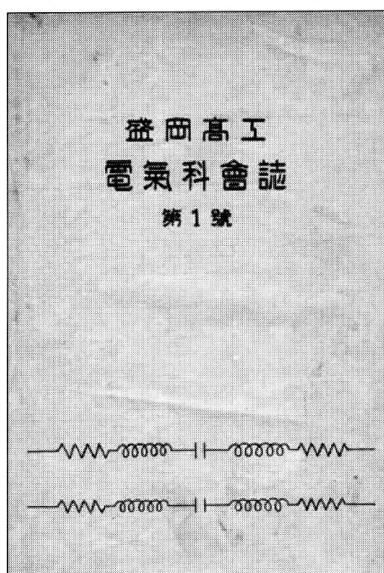
○北杜第60号(H24.03) 大震災、新幹線、ビニール傘そして「ものづくり」(藤井学長)

★第59号(H25.03) 会長挨拶 ☆岩手大学工学部での教員生活を回想して・渡邊孝志 ☆電気電子工学コースの近況：長田洋 ☆情報システム工学コースの近況：西山清 ☆学び舎を巣立って半世紀：四戸弘道 ☆還暦に思う 田中健二 ☆それでも電機業界：山内利明 ☆システムから学ぶ：菊地紀幸
☆佐藤利三郎先生を偲んで：太田原功・久保田賢二 ☆高木三郎元会長を偲んで(第6代・第9代会長)：辻野哲司 ☆佐藤源美元会長を偲んで(第5代会長)・阿部長一 ☆草刈賞第9回受賞者の感想 ☆小笠原拓君を偲んで：高野光平、高木浩一 ☆支部だより：東京、仙台、盛岡 ☆岩手大学復興祈念銀河ホールが工学部敷地内に落成

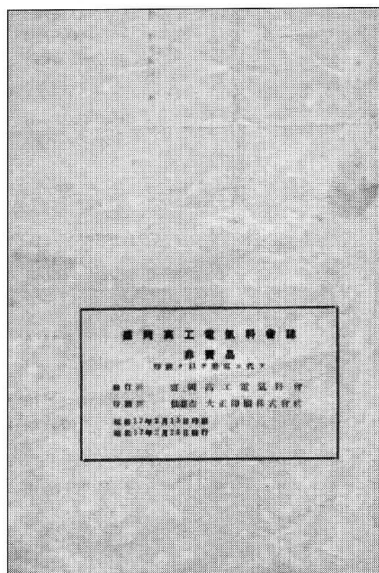
○北杜第61号(H25.03) 一祐会創立70周年記念行事を終えて

◎農学部創立110周年記念式典、講演会、祝賀会(H25.05.30)、創立110周年記念誌発刊

▶ 第一号表紙



◀ 第一号裏表紙



【岩手大学同窓会連合】平成21年6月1日第1回理事会開催、会則を承認して創立、四同窓会が正会員、大学は特別会員、初代会長に太田原功氏(S30電卒)を選出、会長代行に桑島博氏を会長指名、会則により4学部同窓会会長を副会長として承認、創立記念式典挙行、同年8月同窓会連合会報第1号発刊、八戸における「学長との懇談会」で配布、各同窓会に配布依頼(以下同)

◎「卒業生修了生と岩手大学学長との懇談会(第1回、H20盛岡市役所在勤卒業生対象)」

◎「同 in八戸(H21.08.08 第2回)」同窓会連合会長初参加

◎「同 in仙台(H22.08.07 第3回)」今年度から本懇談会を「大学と同窓会連合との共催行事」として実施、同窓会連合会長と各学部同窓会会長が役職として参加(以下同様)

◎「同 in札幌(H23.06.25 第4回)」

◎「同 in東京(H24.06.30 第5回)」

◎「同 in盛岡(H25.07.13 第6回)」

◎岩手大学同窓会連合会報第1号(2009年08月発刊)、第2号(2010年12月発刊)、第3号(2011年12月発刊)、第4号(2012年12月発刊)、第5号(2013年12月発刊)

◎岩手大学同窓会連合第9回理事会(H25.05.13)：H25.06.01からの会長に桑島博氏を選任(S30農卒)、会長代行に黒川國児氏(北桐会会長)を桑島次期会長の指名により了承

【科会総会実施記録】

回数「1～39」は創立50周年記念誌“炎” p 212 並びに梓下【お詫び】を参照して下さい

回数	年月日	開催場所	参加人員	備 考
42	H05.06.19	仙台市五っ橋会館	75名	
43	H06.06.11	エスポワール岩手	35名	
44	H07.06.10	エスポワール岩手	35名	
45	H08.06.08	東京都東海大学校友会館	97名	講演「宮澤賢治について」桜田恒夫 大学院工学研究科博士課程新設 (H08.04)
46	H09.06.14	こずかた会館	30名	講演「岩手の艶笑話」小野寺瑞穂
47	H10.06.13	サンセール盛岡	38名	
48	H11.06.12	仙台市五っ橋会館	53名	「岩手大学電気科会」の名称を 「岩手大学電気電子情報科会」と改称
49	H12.06.10	盛岡市仁王会館	35名	
50	H13.06.09	エスポワール岩手	35名	
51	H14.06.01	東京都東海大学校友会館	72名	講演Ⅰ「岩手大学における大学改革と独立行政法人 化の現状と展望」田山典男 講演Ⅱ「岩手大学における産学連携の現状と展望」 千葉則茂
52	H15.06.29	ホテルメトロポリタン仙台	123名	草川先生ご生誕100年記念事業：追悼法要(輪王寺) 草川先生の思い出を語る会などを実施
53	H16.06.12	いわて国保会館	30名	講演Ⅰ「大学法人化の現状」田山典男 講演Ⅱ「船旅から見た世界」佐々木喜八郎
54	H17.06.11	いわて国保会館	37名	講演「21世紀CEOプログラム」長田洋 「国立大学法人岩手大学」の新体制発足(H17.04～)
55	H18.06.10	東京都アルカディア市ヶ谷	68名	講演「光から電気へ 電気から光へ」柏葉安兵衛
56	H19.06.09	いわて国保会館	35名	講演Ⅰ「地上デジタル放送とは」井上隆志 講演Ⅱ「地上デジタル放送の実情」杉本務
57	H20.06.14	いわて国保会館	26名	講演「方言なんだりかんだり～昔話をかたる～」 小野寺瑞穂
58	H21.06.27	ハーネル仙台	46名	講演「電気系学科再編の背景とそのねらい」 千葉則茂 岩手大学同窓会連合発足(H21.06.01)
59	H22.06.12	いわて国保会館	26名	講演「東京から見た岩手」澤藤隆一
60	H23.06.11	岩手労働福祉会館	30名	講演「公衆電気通信の進展とそのもたらしたもの」 齊藤健
61	H24.06.16	岩手労働福祉会館	26名	講演「創立70周年記念祝賀会を終えて」 寺井正行
62	H25.06.15	岩手労働福祉会館	31名	講演「報道現場から・東日本大震災」 宮手敏雄

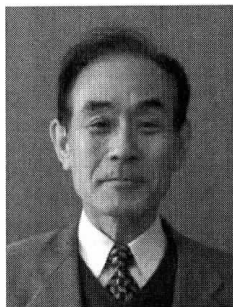
【お詫び】 記念誌 “炎” P212 に脱落事項がありますので下記の通り修正して下さい

「回数2」「S26.07.28 盛岡市大通多賀会館」を挿入、
「回数3」「S29.10.31 盛岡市玉屋旅館」を挿入、
「S30.6.25 盛岡市国鉄厚生寮、参加人員 45」の「回数2」を「回数4」に修正、ならびに
「備考」の「第2回総会」の文言を削除、以降全ての「回数」に「2」を加えて「回数39」を
「回数41」に修正して下さい。
従って、“炎” 誌掲載以降は第42回総会からとなります。

－退職した先生からの寄稿－

「在職中の思い出」

藤 原 民 也



私は昭和 50 年 4 月に赴任して以来、38 年間にわたり岩手大学で教育研究活動に従事させて頂きました。その間、周りの人たちにいつも温かく接して頂き、ご教示を頂きながら、充実した教員生活を送ることができました。このことに心から感謝致します。

岩手大学での 38 年間の思い出をまとめてみました。教育で思い出に残ることは、着任して間もない頃の学生実験の指導です。その頃に担当した実験テーマは直流機と同期機でした。強電実験室は木造造りで、その中は確か土間だったように記憶しております。発電機や電動機の運転経験がない私に沼田六七八さんがいろいろ教えてくれました。強電実験室には英語の落書きもあって、そこは進駐軍の食堂だったことを沼田さんにお聞きしました。同期発電機の負荷は、五右衛門風呂を思わせる大きなコンクリート容器に入れた水（水抵抗）でした。大人一人が中に楽に入れる容積でも、水抵抗は厳寒の夜にはすっかり凍ってしまい、学生実験はまず容器に凍結した氷を溶かすことから始めなければなりませんでした。電気機械は自分の専門ではありませんでしたが、それ以来 38 年間電動機と発電機に関して、学生実験の指導や講義を担当させて頂きました。

研究上の思い出は、昭和 53 年に着手した「誘導電界における電子なだれの進展に関する研究」です。当時、研究室（研究室名は「電気基礎学講座」、教授は杉田慶一郎先生）では、核融合プラズマの基礎研究をしていました。この分野では、安定な高温プラズマを生成するためには、まずプラズマ生成過程を明らかにする必要がありますと言われておりました。しかし、大型プロジェクトはプラズマの平衡・加熱に精力を注ぎ、プラズマ生成過程にまで手がまわら

ない状態でした。そのような経緯と誘導電界中の電子なだれという学術的意義から、私はこのテーマに取り組むことにしました。電子なだれの研究は、古くから行われておりますが、静電界中のものがほとんどであり、誘導電界中については報告例皆無と言えるほどでした。放電装置や計測系は、ほとんどすべて手作りで、実験にはなかなか至りませんでした。寒い日の真夜中、ドーナツ状放電管内での電子なだれの進展を示す計測結果がやっと得られた時の喜びは今も忘れられません。この仕事は私の学位論文となりました。装置製作で電気工場の田中博さん、装置の製作や実験を共にした当時の学生さんに、この紙面を借りて御礼申し上げます。

昭和 62 年 3 月から 1 年間、アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学で海外研修に出させて頂きました。滞在先は、絶縁油中の高電界現象で活躍中の M. Zahn 教授の高電圧研究室でした。私の前に岩手大学ではすでに山田弘先生が同じ研究室の C. Cooke 教授のもとに 2 年間滞在されました。アメリカに出発する前に山田先生より多くのことを教えて頂きました。そのおかげで、現地での生活や研究の立ち上げが思ったよりもスムーズに早くできました。滞在中の研究課題は、電気光学効果を用いて、変圧器油中の電荷分布を計測することでした。Zahn 教授は、それまで電気光学効果（Kerr 定数）の大きい液体誘電体で高電界中の電荷分布を光学的に計測することに成功しておりました。しかし、私のテーマで使用する変圧器油は Kerr 定数が非常に小さく、電荷分布の画像がなかなか得られず苦勞しておりました。帰国が近づいた頃、共同研究者として私とペアで活動していた博士課程の D. M. Sheen と討論を重ねて、計測系を変更することにしました。帰国してから一年後アメリカから小包が届きました。送り主は D. M. Sheen で、中には手紙と彼の博士論文が入っておりました。博士論文のタイト

ルは、” Kerr Electro-optic Field and Charge Measurement in Transformer Oil” で、142 ページの中には見覚えがあるグラフや写真が所々に現れました。あの時の討論に基づいて、OMA (Optical Multichannel Analyzer) を使って、研究目的を達したと思いました。一年間の海外研修は、私にとって目に見えない財産となりました。研究面だけでなく、現地や日本の良き人たちと知り合いになれたこと、研修によって初めて異なる考え方や物の見方に接することができたこと等々。当時も大学は少人数の教員で教務関係や学科運営に関わるいろいろな業務を行っておりました。しかも仕事量は年々多くなるばかりでした。そのような状況で一年間の海外研修という貴重な機会を頂いたことに心から感謝申し上げます。

私の故郷は秋田の県南で、そこから南西の方向に遠く鳥海山が見えます。気品高く聳えたる、あの山にいつか登ってみたいものだと思っておりました。一人では自信がないために、なかなか登る機会がありませんでしたが、平成 15 年 9 月についに実現しました。高木先生を中心に研究室のメンバーが登山計画を立ててくれたのです。研究室内には、「プロジェクト X：藤原先生を鳥海山頂上に運ぶ ～現代：檜山節考～」というメールまで流れました。数日前になって、台風が北上中というニュースが入りました。このままだと直撃かもということで、登山をあきらめる人もでしたが、5 名（高木先生、学生 3 名、私）は予定通り決行となりました。日頃の行ないが良かったせいで（？）、台風の手が速まり、直前に通り過ぎたため、かえって台風一過の晴天に恵まれました。そのおかげで、めったにお目にかかることができないと言われる「影鳥海」も見ることができました。鳥海山は山頂が海岸線から 15 キロしか離れていない独立峰であること（地形の条件）や時刻と気象条件がうまく重なり、朝日を浴びた鳥海山の姿が日本海に投影される特異な現象です。私はそれまで名前すら知りませんでしたが、学生たちは、日本海に黒いピラミッド型のシルエットが現れると、「やった！影鳥海だ！」と歓喜の声を挙げました。下山途中ですれ違った地元の人

も『自分の庭先のように 30 回以上は登っているけど、まだ 3 回しか見てない』と言っておりました。また秋田の知人も『20 年登っているが、まだ見たことがない』とも話しております。それがたった 1 回で見ることができたのですから、私はなんとという幸運に恵まれたのでしょうか。記念の影鳥海の写真は大学のデスクの上にありましたが、退職した現在は自宅の狭い部屋の机に置いて時々眺めております。台風接近にもかかわらず計画を決行して、私に良き思い出を作ってくれた高木先生や学生さんたちに感謝しております。

在職期間終わりのクォーターでは、岩手大学に着任して間もない頃の卒業生と共同研究を通しての交流、同じ団塊の世代と学会やプロジェクトを通しての付き合いも良き思い出です。共同研究では、特に北陸の日本海沿岸における冬季雷電流の計測が思い出されます。落雷電流の電荷量が、波形全体で 423 クーロン（波形の under-shoot 分を考慮しないと 250 クーロン）にも達する大きな雷電流を計測しました。これは北陸の冬季雷でも発生確率（累積頻度）がわずか数パーセンの国内最大級の落雷でした。学会活動や拠点大学事業では、同じ団塊世代と仲間意識を働かせながら活動しました。中国では 10 日間 3 大学で講演しながら、広い大陸を回ったこと、ひどい腹痛と下痢に悩まされたこと、旧ユーゴスラビアでのパスポート一時紛失騒ぎなどが懐かしく思い出されます。

残された紙面が少なくなりましたので、この辺でタイトルの「在職中の思い出」は終わりにして、現在の私の生活を簡単に紹介します。昨年 4 月からは非常勤講師と老母介護の一年でした。非常勤講師として、岩手大学と高専で、それぞれ週 3 回と週 2 回（同日）講義をしております。専門知識をまだもたない生徒に、「理解してもらうためには、どのように教えたらよいのか」をこれまで以上に真剣に考えております。このようなことで、退職後も引き続き充実した生活を送っております。

会員の皆様には、在職中大変お世話になりました。お礼と皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

在職中の思い出

山 田 弘



初めて盛岡駅に降り、街を知るために歩き始めると橋があった。それには「開運橋」とあり、これで自分の運も開くに違いない、と都合よく解釈した。それまで私は出来の悪い院生であったから、どうして電気工学科の教員として選んで戴いたのかという、疑問があった。それを着任直後に上司の佐藤淳先生に訊ねた。先生の御答えは「君にはロマンを感じる。」というものであった。それから退職まで御期待に沿った研究者にも教育者にも遠く及ばなかったと思う。しかし、他に特に取り柄のないわずかな特性を佐藤先生は見抜いていたように思う。また、その芯が変わらないので、退職後の今も研究を続けたいと思っているのかもしれない。このような人事が可能だったのも当時は一本釣りの傾向が強かったためであろう。その後の経験からも個人を良く知らないと「研究のやる気」は判らない。公募の精神は尊重されるべきであるのは当然であるが、一本釣り選考には味があるように思う。

学科には大学の先輩がいなかったので学生時代の不出来が誰にも伝わらなかったことは幸いだった。しかも、佐藤先生は頭の回転が素晴らしいのみならず、自由と豪傑の気風に満ちておられた。当時としては仕方なかったが、改善を要する問題もあった。例えば、学生の多くは夕方には早々に帰宅してしまい、大学院の定員がガラ空きの状態だった。大学院での研究等の効用を学部学生に納得させ、教員仲間と長期にわたり定員の充足に努め、大学院への進学率は7割に至るまでになった。

研究では以前からのテーマであった液体絶縁物の破壊進展現象を岩手大学でも継続した。この研究分野は気体放電よりも遅れた感があり、その解決のため新たな計測手法が必要と感じた。そこで、佐藤先生などの御尽力により導入され

たばかりの超高速カメラの活用や破壊前駆微弱電流計測系の開発を学科の技術官の多大な協力により進めた。これらを駆使して院生を中心とした学生の努力により当初の期待以上の研究成果を上げることができた。一般に得意技を持つとその領域のデータは根こそぎ独り占めとなる。ここでそのままこの研究を続けていても国際的研究レベルは保たれ楽な研究生生活だったであろう。しかし、国内のこの領域の研究者は電気工学者が殆どであり、討論が偏りがちで深めることが難しいなどの問題があった。「決断しないことは悪い決断をするよりもっと悪い」という諺に従い、絶縁物を離れてより基礎的な分野に入ることに決めた。佐藤先生は反対するどころか積極的に背中を押してくれた。それは、室温のような低エネルギーの環境でウランよりかなり軽い元素でも他の元素に替わり得るか、という科学全体としても冒険的な分野である。勉強することが山ほどあり、直ぐ役に立つような応用と離れているため研究資金獲得は極めて難しく、論文数を稼ぐことも難しい、などあらゆる悪条件を備えた分野といえる。退職後もこの研究を続けており、自然科学の奥深さをよく知らしめてくれる喜びを今も感じている。

岩手大学からは離れるが、短期間とはいえ在職中2年間の米国留学にも思い出深いものが多い。米国人も日本人も考え方にそう大きな違いはないのだ、と人生の殆どを米国で送ってきたある日本人は言う。それでも面白く感じる違いはある。訊かれた人は誰もが自分の給料を隠さず教えてくれた。選挙運動では連呼は禁止されているため街は静かである。借家では礼金・敷金の類はない。1ヶ月分の前払い分は帰国する時それまで銀行に預けておいた利息を付けて返してくれた。私は団塊の世代だから何でも食べ、食事で不平をいうことは滅多にない。だが、米国では学会のディナーでさえ、よくこんなモノが食えるな、と感じるものが出てくる。ある学会で、食事の感想をそっと話しかけてきた人がいた。マズイとは言えないので適当なことを言

っておいた。その後、その人はフランスから来たばかりであることが判った。勿論米国でも旨いモノはある。日本の庶民には縁が遠いと感じる小切手の利便性も覚えた。それも出せる枚数に制限のないものから、月3枚しか出せないが千ドル以上常に口座に入れておけば年利息が驚異的8%のものまであった。国民背番号制であるが、住民票とか戸籍のようなものはなく、その代わりを果たすものは運転免許証である。車社会だから米国内の大部分は車が無いとどうにもならないほど不便である。そのため大学内でも車のパーキング・ステッカー（入校許可証）は奪い合いであり、売買されることもある。車で地位を表わそうとする傾向はとても小さく、大学教員でも新車は奥さんが使い自分の車はボロボロの人がいる。それでも海と山に別荘を持ち、次はヨットを持ちたいなどと言っていた。管理人に頼まれ我々の借家の庭の芝刈りに来る人なども別荘を持ち優雅にやっており、「中の借家人」の生活だけが貧弱なのだった。住んでいる町まで地下鉄が伸びる計画があったが、すごい反対運動で計画は頓挫した。地下鉄やバス路線がなく車しか利用できないところが治安の良い教育水準の高い高級住宅地である。地下鉄などが入ると資産価値が激減するので怒り狂うのである。

車を積極的に使うと面白い発見が多い。70マイルの制限速度はあっても国中広く張り巡らされたハイウェイは無料である。ニューヨークやシカゴなどの周辺だけは25セントから1ドル徴収されるだけである。州間をまたがるインターステイトと呼ばれるハイウェイとなると、片道4車線の計8車線もあり、その1車線は日本の高速の1.5倍程の幅があるので運転は快適この上ない。上り下りは普通50mくらい離れているので安全性も高い。交通標識類が見易くスッキリ感があり初めての場所でも迷うことはない。車の保有にかかる1年の費用は住んでいる町に払う10ドルと排ガスチェックの10ドルの計20ドルだけである。ただし、当時の車はオンボロが多く、修理のため車が2～3台しか入らないようなガレージをもつ個人経営のショッパに運び込むことになる。そこで交換を要する部品を教えられると、自分で近くのスーパーで買って戻ってきて取り付けてもらう。

スーパーでは殆どの部品が安く売っている。ボストンの冬は盛岡以上に冷え込むが、スタッドレスタイヤなどは無く、ラジアルタイヤで誤魔化している。すり減ったタイヤに新たにゴムを張り付けたものがホイール付き10ドルくらいで売っていた。車を維持するのに極力お金がかからないようにはなっているが、中古車だけは日本より高い。

私はアウトドア志向があり、よく家族でキャンプ場にテント張りながら旅行をやった。広大なキャンプ場でも入口は1箇所のため管理が良く安全である。東海岸はニューヨークまで南下すると年中開いているキャンプ場があるので、メトロポリタン美術館や自然史博物館などの見学はそこから通った。キャンプ場は、全く緑が無い砂漠のような処から巨木に囲まれ熊の出る処まで国中で至るところにある。大都市周辺では、夏はそこに巨大なキャンピングカーを入れて、別の車で街に出勤する人もいる。キャンピングカーというよりも豪華な移動住宅である。また、ワシントンDC近くのキャンプ場には、お金がないので自宅を持たず奥さんと子供をキャンピングカーに年中住まわせ、そこから出勤している人がいた。キャンプ場使用料はあるのだが、管理人との阿吽の呼吸か、どうもタダで住んでいるようだった。このような融通性も米国人のおおらかさである。

施設が充実している米国の国立公園が1年間利用できる18ドルの家族パスがある。良く整備され変化に富む自然を貧乏人でも十分楽しむことができる。また、砂漠から山岳の隅々まで面白そうなところには残さず文明を運び込む米国人のエネルギーには感心させられた。こんな辺境でトラベラーズ・チェックが効くのかと心配することがあったが必ず有効であった。ネバダ州を通過したときの印象深い光景が思い浮かぶ。赤茶けた岩だらけの場所に白人が住む小さな集落がある。どこにも緑は見えず、集落の背後のゴツゴツした小さな山ぐらしか変化はない。なんとも表現が難しい殺伐とした風景である。このような処によく平気で住めるものだ。このようなときに、米国人と日本人との精神構造のどこかにある大きな相違を感じざるを得ない。

岩手大学訪問滞在記

谷 口 宏（昭和 45 年電子卒）



岩手大学電気電子情報科
会会員の皆様方、こんに
ちは。皆様方にはお元気で
いらっしゃることを何より
と、心よりお慶び申し上げ
ます。

長年奉職させていただい
た岩手大学を、平成 25 年
3 月に何とか卒業させていただきました。懐か
しく思い出されたことを述べさせていただき
たいと思います。

私こと、札幌市に生を受け、私をご存知の方
には信じ難いことでしょうが、2、3 歳の頃
には体が弱く、医者からも長くは生きられない命
といわれました。幸いにも持ち直し、後に経済
破綻した例の炭鉱の町夕張で高校卒業まで何事
も無く過ごしました。高校は、私の入学当時
には 3 年生不在の、新米はやはやの学び舎
でした。そんな田舎町から内地（北海道では
本州のことを良くそう呼んだ）盛岡へ受験
に来、やはり内地は暖かいなあと感じたもの
だった。学科試験が終わっての午後、宿で
テレビニュースを見るたび、諸外国の航空機
墜落事故が連続して報道された。この関わり
から自分自身の試験の方も墜落に違いない
と思っていたが、電子工学科第 1 回生として
何とか滑り込むことができた。

やがて新装なるが、木造のつなぎ廊下、木造
の製図室、階段教室、各研究室と並び、各研
究室には干した薪と薪ストーブが置かれ、一
番端に数人並んで使う男子用トイレがまだ残
っていた。鉄筋で立派になった今の校舎から
は全く想像のつかない質素な建家であった。

大学 3 年までは準硬式野球部に所属して汗
を流し、4 年の卒業研究では、本科会の現在
の会長であられる柏葉安兵衛先生（本学名
誉教授）のもとで、半導体結晶の再結晶化に
関してご指

導いただきました。出来の悪い学生の指導で、
先生にはご苦勞されただろうと（遅すぎま
すが）お詫び申し上げる次第です。大抵の
人が受かるという他大学院を受験してもパ
スせず、卒業後 1 年間教務職員として勤め
させて戴いた後、本学の大学院で齋藤弘先
生（本学名誉教授）のもとで、有機染料レー
ザーに関する研究でご指導を戴きました。
大学院修了後に、助手として採用いただき、
以来、退職までの長きに渡り、レーザー関
連の研究に従事しました。学生時分から、
岩手大学には長い間お世話になりました。

実績の無かったことが主因ですが、在職中
の研究について触れることなく稿の中盤す
ぎに差し掛かりました。乏しい乍らも懐か
しい海外渡航経験を通し、欧米の科学者
との交流は忘れ難い。工学部同窓会誌「北
杜」にも退職記事として載せて戴いたので
異なる内容を記載します。

助手時分の海外初渡航のオランダ、ユ
トレヒト。夜食のインスタントラーメンや、
夜中の放電電極磨き、自作窒素レーザーの
国際学会初発表である。スキポール空港
から学会開催地のユトレヒトまでバスに
乗ろうとドライバーに尋ねるが、希望地の
ユトレヒトの発音を理解して貰えない、や
り取りの後、オイトレヒトみたいに言っ
たら通じた。本番の発表は推して知るべし
、である。学会後立ち寄った独国ゲッチン
ゲンのマックス・プランク（生物）物理化
学研究所のスタッフとも自作窒素レーザーを
ネタに歓談できた。ユトレヒトを始め、途
中寄港も含めてデンマーク、ドイツ、イ
ギリス、スウェーデン、ロシア、2 週間
で 12 都市を駆け足で抜け、列車での各地
巡りの思い出は語り尽くせない。

遅くにして論博の学位を得た。「金属蒸
気レーザーの励起および緩和過程に関する
解析的研究」（東北大学 稲場文男教授－
昨年ご逝去－にご指導いただく）とい
う題目で、レーザー出

力パルスが緩和発振（時間的に短いパルスの連なりから成る発振）となる現象を実験結果に基づいて理論的に検討した。学位論文の基礎の基礎となるべく、短い理論解析の論文が、「従来には無いレーザー動作の解析であり、解析理論の根底に誤りがある」というコメント付きで却下された（おまけに論文の英文構成が悪い、と駄目出しがついて・・・）。それまでの経緯もあり、生意気にも第二レフェリーを希望していなかったのも、他のレフェリーへ回る余地はなく、次のフルペーパーの準備も並行して進めていたこともあって、この却下はまさに地獄であった。

却下後およそひと月、あり得るはずの無いプロセスが生じた。却下された筈の論文が何故か東大の理学部に廻って行き、「数値解析の結果などがあれば、それを追加して改訂して下さい」とコメントが付き、上智大理学部先生の参考論文まで紹介して当該論文支持を意味する内容の連絡を得た。この参考論文は既に知っていたし、当然次の論文準備で数値解析を進めていたから、この要請には容易に応え、元原稿に僅か4行程の追加改訂をして、2週間後には掲載可の判定通知が届く（勿論、当初レフェリーの“英文構成が悪い”の指摘に答えること無く当初投稿原稿のままで）。生じたプロセスは神のみぞ知る、であるが、地獄から天国への思いであった。

次いで、やはり駆け足で、助教授の時分に経験した、いずれも3ヶ月ずつの、ポーランド科学アカデミー低温と構造に関する研究所（ブロッツワフ；国際共同研究（馬場守先生（本学名誉教授）代表）と米国エール大学物理工学科（ニューヘブン；客員研究員）への渡航滞在である。微小球レーザーと光多重散乱レーザーというテーマを掲げ、前者は髪の毛の太さ程度の小球レーザー、後者は1960年のルビーレーザーの発明以来、レーザーの常識を覆す濁り状レーザーの新課題である。この課題で、ブロッツワフ（前出）とワルシャワ（物理学研究所）の両所にて、光栄にも45分ものロングレクチャーの

招待講演の機会に恵まれた。ワルシャワ工科大学にも招待され、若手研究スタッフから、私が助手時代に自作したと類似の、やはり自作の窒素レーザーを紹介され、今も有効活用している旨説明を受けた。恵まれているとは言えない環境の中での精力的な研究に心から感動した。

エール大学では、リチャード K. チャン教授に公私にわたりお世話になった。研究紹介では、2時間ほど話した後、“あと、どれくらい良いか”との問いに、リチャードは“infinitive（無限大）”との心遣いをしてくれた。さらに、田舎町のブラットロボローの別荘地での二泊三日の小旅行は、東北大学にも来日、滞在したこともある仏国リヨン工科大学の W. J. ピエール若手教授とも同伴、交歓でき、有意義であった。海外滞在のいずれも覚束ない英語で過ごしたが、欧米の研究者との研究交流や交歓ができたことは忘れ得ぬ一生の宝であり、若い人達へは、是非とも若いうちに経験して戴きたいとの気持ちを込めて、我が身の恥を紹介しました。

工学部在職中、途中福祉システム工学科に所属したが、再編後ふたたび電気電子・情報システム工学科に所属させていただいて無事退職を迎えることができた。皆様のお陰です。またご縁があって、大学院の講義を非常勤で担当させていただいており、大学からすっきりと足を洗えないでいるが、幸せなことである。

この原稿依頼をご連絡いただいた時、陛下が罹患されたと同じ癌の宣告を受けた真っ只中にいた。期限までに最後まで仕上げられるだろうか懸念しつつも、お引き受けすることにした。“憎まれっ子世にはばかる”という。これが遺稿にならず、願わくは（他人様の迷惑は顧みず）、ふたたび、“憎まれっ子”と……。元気になって、多くの人にまたご迷惑をおかけしたいと願っています。

会員の皆様には、より一層のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

電気電子工学コースの近況

電気電子・情報システム工学科 電気電子工学コース長 長 田 洋

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より学科の運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

電気電子・情報システム工学科は、平成 21 年度に、それまでの電気電子工学科と情報システム工学科を再編して誕生した学科ですが、平成 25 年 3 月に、新学科として初めての卒業生を送り出すことができました。本電気電子工学コースではそのうち、約半数が大学院へ進学しています。長引く不況や東日本大震災の影響もあり、昨年度は一時的に進学率が低下しましたが、ここ 10 年の進学率は 50% 以上を維持しています。また、企業においても採用条件を「修士以上」とするところが増加しており、就職の選択肢は大学院修了生の方が確実に広がっています。

日本は製造業の割合が高く、多くの技術者が必要とされていますが、就職情報サイトによる長期にわたる調査からも、電気工学系の学科は、基本的にずっと売り手市場（就職活動で学生有利な状況）と言われています。今後理工系人材としてニーズが高いと思われる工学部学科系統を 3 年ごとに調べた、「新卒における理工系人材ニーズ調査（マイナビ調査データ）」におきましても、電気系（情報系含）と機械系が常にトップです。電気・電子・情報系の人材ニーズは、電力会社、電機メーカー、通信会社が多いですが、インフラや製造業から金融まで、非常に多くの業界・職種から必要とされています。

このように、当学科の卒業生は、社会から大きく期待される存在なのですが、その採用基準は他学科・他学部同様、年々厳しくなっています。ほぼすべての企業で「量を確保するために質を犠牲にすることはない」という姿勢が見られます。一方、昨今の学生は、企業の採用担当者からの目線では「ややのんびりしている」とのことです。本学科の学生にも、力が無いわけではないのに、危機感の不足から、その能力を発揮できていないケースが見受けられます。

我々もできる限りの啓発・サポートはしておりますが、会員の皆様からも、折に触れ話題にしていただけましたら幸いです。

「ややのんびりしている」と評価されることが多い学生ですが、ここ一番では高い集中力を発揮します。今年度は、大学院博士前期課程生の三ヶ田祐也君が、「IEEE Magnetics Society Sendai Chapter Best Student Presentation Award」を受賞しました。本賞は、東北大学主催の「スピニクス特別研究会」において、特に優れた発表を行った学生に対して送られるものです。

教員も活躍しています。高木浩一教授が日本エネルギー環境教育学会（JAEED）実践報告賞を受賞しました。投稿した論文「震災復興と協調したエネルギー教育支援」が、特にエネルギー環境教育実践の振興と発展に寄与したと認められたものです。

最後に、本コースの教員の移動等に関して紹介いたします。平成 25 年 3 月には、電気エネルギー工学分野の藤原民也教授および山田弘教授、電子デバイス工学分野の谷口宏教授、が定年退職されました。皆、学生の指導と研究に真摯に取り組んでこられた方々でした。また、同年同月、電気エネルギー工学分野の高橋和貴助教が退職されました。新天地でのご活躍を祈念します。また、平成 26 年 3 月をもちまして、長年岩手大学に奉職されております、岡英夫教授が定年退職されます。岡先生は、本学科の電子デバイス工学分野を牽引され、近年は木質電波吸収ボードの研究及び実用化で国内外から高い評価を得ております。ここ数年で、多くの優秀な教員が退職しますが、電気電子・情報システム工学科教職員一同、今後も一層社会が求める人材育成と、地域が求める知の拠点を目指し、教育と研究に努力して参ります。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り致しますと共に、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

情報システム工学コースの近況

電気電子・情報システム工学科 情報システム工学コース長 安倍 正 人

電気電子情報科会会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、当コースの西谷教授は平成 24 年度から工学部長として工学部のために働いておられますが、平成 26 年度から前工学部長の堺先生が学長に就任されることにともない、理事に就任することになりました。先生には長い間当コースのために多大なご貢献をいただきましたが、来年度からは教授の職からは退かれることになります。今後、西谷先生には全学のために大いに働いていただきたいと思います。

当コースの今年度の国際交流としては、今野教授が中心となって、西安地区の 2 大学（西北農林科技大学、西安科技大学）との交流およびモンゴル科学技術大学との交流が行われました。

研究面では、今年も学生を中心とした研究発表等に対して以下のような多くの受賞がありました。学会名、受賞名、受賞者、研究論文題目名を以下に示します。

① E T ロボコン 2013 東北地区リベンジ大会において、岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科チームが 3 位入賞

② 小原正樹（電気電子・情報システム工学専攻 D3）、平成 25 年 Best Paper Award The Winner (ICPS2013:International Conference on Photonics Solutions 2013, International Advisory Committee)「国際会議における最優秀論文賞」、「Digital holographic three-dimensional imaging spectrometry based on rotated-hyperbolic type volume interferogram」

③ 金天海准教授、平成 25 年 ロボット学会学術講演会 研究奨励賞、「局所線形性を利用した非線形動作最適化手法」

④ 金天海准教授、平成 25 年 International Conference on Industrial, Engineering & Other Applications of Applied Intelligent Systems Best Paper Award Nomination, 「Online exploratory behavior acquisition of mobile robot based on reinforcement learning」

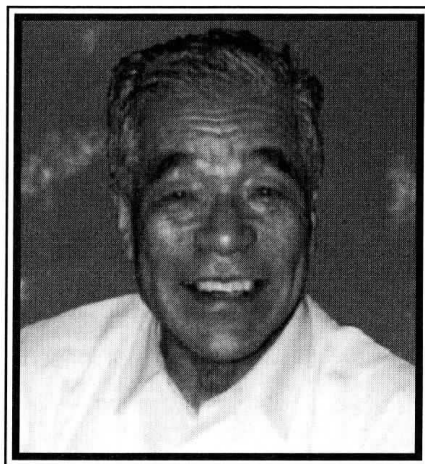
この一年間の人事異動をお知らせいたします。平成 25 年 3 月には、厚井裕司教授が定年退職され、また鈴木正幸准教授は時間的ゆとりを持ちたいと 60 歳を機に退職されました。ただし両先生には引き続き非常勤講師をお願いしております。両先生には今後とも我々後輩を叱咤激励していただきたいものです。更に 9 月には、兼岩憲准教授が電気通信大学に教授として転任されました。先生の益々のご活躍を期待します。一方、12 月には金天海先生が「株式会社 ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン」から情報コースに赴任されました。先生のご専門は「知能ロボティクス」です。

不況の影響で、来年度の就職状況は今年度と同様に非常に苦しいと感じていますが、教職員一同努力していく所存ですので、会員の皆様には益々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



最優秀論文賞を受賞する小原氏（左）

岡田元会長を偲んで



追 悼 文

山 崎 時 男（昭和 24 年工専電気卒）

岡田さんは昭和 18 年 9 月、岩手大学工学部の前身である旧制盛岡高等工業学校第 3 回生としてご卒業、時恰も太平洋戦争愈々苛烈を極める中、身体強健、適格者として海軍予備学生に合格し日本護衛の任に当たった。海軍少尉に任官し昭和 20 年には瀬戸内海広島県沖、江田島西側の海上に航空母艦“竜風”の対空射撃指揮官として勤務された。8 月 6 日の朝、艦上の甲板から北西方にもくもくと真黒い煙が上空にあがっているのを目撃した。翌 7 日、艦長からそれが新型爆弾で世界で初めての原子爆弾であると知らされたと体験談をされておられた。8 月 15 日終戦となり一週間位して郷里盛岡に復員された。その帰途、広島駅を通過した時、広島の惨状を目撃されている。

郷里盛岡市仙北町の自宅に復員され暫くして、就職難の中で実家の近くに在る東北振興の目的で設立された東北毛織株式会社に就職された。戦後の社会状況が漸く回復し始めた昭和 26 年、ご自宅敷地の一角に電気工事会社を設立して、以後次第に事業拡充し、現在はご子息が後を継いで大いに地域社会に貢献されております。

日本社会も次第に良くなり、東京タワー（大先輩、高工一回生佐藤利三郎先生が直接関わっている）が建設中の頃、公私共にご多忙な岡田さんが昭和 33 年 6 月の電気科会総会で第 4 代会長に選任されました。誠実なお人柄にユーモアがあり、会長になられた最初の会誌“きた

かみ”12 号では、初めに“母校在校時代の思い出”を色々書かれてから、“一言、長として”と題して新会長としての所信を述べております。

電気科会も初代草刈先生はじめ第 2 代阿部源祐（高工第 1 回）さん第 3 代小沢甚一郎（高工第 3 回）さんの歴代会長のお力で、社会情勢の次第に良くなって来ると同時に、基盤が次第に固まって来た頃です。科会の目的を充実する為、地域支部活動の活性化を進めてきました。岡田会長になられた翌年、昭和 34 年春、初めて科会総会が本部所在地盛岡を離れて、岡田会長がご出席の下、東京で開催されました。東京支部の方々のお力で開催出来、さすが東京地区在住の方々で 72 名のご出席があり、我が電気科会の底力を感じることが出来、大盛会でした。

以後、次の仙台支部に引続いて全国各地の支部で科会総会を開催することが慣例となり、科会発展の原動力になっております。

また、母校岩手大学工学部の同窓会一祐会の理事、副会長等の役職を歴任され、当時の一祐会会長、故佐々木浩（工専電気 7 回）・元岩手県副知事が急逝された折り、急遽会長代行にご就任、岩手大学工学部同窓会・電気電子情報科会と共にその運営に献身的にご尽力されております。

一昨年 10 月、電気電子情報科会 70 周年記念祝賀会が東京アルカディア市ヶ谷で開催された時、岡田さんは元会長として科会活動を先導さ

れ、科会の振興に献身的にご尽力されたことにより“草刈功労賞”を受賞されました。岡田さんはご高齢で静養されておられましたが、電話でこの事をお伝えした時、大層お喜びになられて東京の祝典には出席するとお話になっておりました。然しご高齢に体調のこともあり、ご家族のご配慮で東京の祝典には欠席での草刈功労賞受賞でした。電話の時の張切り様は、正に電気電子情報科会に対する老いて益々盛んな情

熱を感じました。そのような中、岡田さんの思いがけないご訃報に接し、只々哀悼の気持ちで一杯です。ありし日を偲んで、御冥福をお祈りしております。

科会会員一同、母校岩手大学・一祐会・岩手大学電気電子情報科会の発展充實に協力して参ります。永い間、本当に有難うございました。どうぞ安らかに、そして天上界からお見守り下さい。

弔 辞

謹んで岩手大学工学部同窓会 一祐会 顧問 岡田整八様のご霊前に哀悼の意を表します。

思えば先月、風薫る5月18日、一祐会定期総会が母校工学部のテクノホールで開催されたばかりでした。

近年、めっきり工専時代の諸先輩の出席が少なくなり、特にも岡田顧問のお姿がお見えにならなくなったのが、ふと寂しさを感じさせたものでした。

それから幾日も経たぬ今、思いも掛けない訃報に接し、只々驚きと悲しみを禁じ得ません。会員一同面影を偲びご冥福を祈るのみで御座います。

やっと誘致された盛岡高等工業学校の開校を喜んだのも束の間、昭和16年12月太平洋戦争勃発、戦況は熾烈を極め、学生は繰り上げ卒業を強いられました。

貴方は、昭和18年9月岩手大学の前身である盛岡高等工業学校電気科三回生としてご卒業、兵役に従事されました。昭和20年には海軍少尉として、広島県呉沖・江田島西側の海上に浮かぶ航空母艦「竜鳳」の対空射撃指揮官を拝命、乗船されてからは、B-29爆撃機とグラマンに襲撃される毎日であったと伺いました。

昭和20年8月6日、広島に原爆が投下された際も、立ち上るキノコ雲を艦上より目のあたりにし、8月15日、呉港に向かい、広島において終戦を迎えたとの事でした。原爆の脅威と惨状を目前にした稀有の体験をされたということを、60周年記念誌に寄せられた貴方の一文で知りました。

その後復員、戦後の状況下で、電気工事業を起業され、幾多の困難を乗り越え、持ち前の研究熱心なご性格で会社を大きく成長させ、今日に至っております。

創業間もない多忙な時期でも、同窓会の基盤母体の一つである電気科会の四代目会長に選任されました。35歳という若さで、社業との両立にご苦労されたことだったでしょう。

また母校工学部の同窓会である一祐会の創設にあたっては絶大なるお力添えを頂いたのは勿論、長年理事、副会長職などを歴任され適切なアドバイスを賜りました。平成9年には、当時の一祐会会長故佐々木浩・元岩手県副知事が急逝された折り、急遽会長代行にご就任頂き、その後の一祐会の運営に精力的に尽力され、後任会長選任までご尽力されたことは記憶に残る事でございました。

岡田様の誠実、かつユニークな発想、飾らない語り口、真面目なお人柄は、多くの同窓生のひとしく敬慕するところでありました。

一昨年3月11日に、三陸一帯を襲った東日本大震災の際にも、同窓生を案じる心温まるお電話を、いち早く頂戴いたしましたことは、他人を思いやる優しい心根の表れでありました。

昨年創立70周年迎えた一祐会の、今後の発展を見ることなく黄泉路に旅立たれたことは、さぞ残念であったでしょう。

国立大学法人として更なる飛躍を期す岩手大学と、その一翼を担う、工学部同総会一祐会の発展のためにも、岡田様の数々のご尽力を無にしないよう努めて参ることが私たちの使命であり、ご遺志に報いる道と考えます。

一祐会会員一同努力することを、ここにお誓い申し上げます。

はるか天上より、母校岩手大学と、思い出の一祐会の未来をご照覧下さい。

永い間、本当に有難うございました。

どうぞ安らかにお眠り下さい。 合掌

平成25年6月13日

岩手大学工学部同総会 一祐会会長 渡 邊 喬

※弔辞は一祐会 小野寺瑞穂副会長（電気大2回生）が代読。岡田先輩への追悼の想いをこめて、霊前に奉呈したものです。一祐会のご了解を得て掲載致しました。

－草刈賞 第 10 回までの歩み－

草刈賞創設 10 年をふりかえる

平成 26 年 1 月 草刈賞委員会

「草刈先生ご生誕 100 年記念事業実行委員会」に「草刈先生顕彰銅像」の建造と「草刈賞創設」の 2 案が提案され賛否両論活発な意見が交わされました。議論が進む中で、銅像建造に関しては故佐藤利三郎氏（昭和 16 年工専 1 回卒）から「私費で胸像を寄贈したい」とのお申し出があり、これを有難くお受けして実行委員会は台座を含めた胸像建立を行うこととしました。

次いで、草刈賞創設に関して実行委員会の全面的な賛同が得られ、平成 15 年度卒業生を第 1 回として平成 24 年度までに 10 回、計 34 名を表彰致しました。当初計画では 10 年間を見込んでいましたが、科会として「草刈賞委員会」を立ち上げて「副賞の新設」や「将来に向けての計画」を立案し、科会経常費に草刈賞積立項目を新設する（H22 年度以降）とともにご寄付をお願い致しました（「きたかみ」56 号参照）。お蔭さまで下記有志の方々からご寄附があり、平成 25 年度以降の継続を見込むことが出来ました。ご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

「草刈賞創設 10 年をふりかえる」にあたって、賞の骨格事項を改めてご紹介し、「草刈賞」の更なる継続発展のために各位の一層のご協力をお願い申し上げます。

《草刈賞の創設》 盛岡高等工業学校並びに盛岡工業専門学校電気科卒業生（全 10 回）、岩手大学工学部電気工学科、同電子工学科昭和 45 年 3 月までの卒業生並びに教職員有志約 90 名が「草刈先生ご生誕 100 年記念事業実行委員会」を組織して記念事業を立案し、上記の卒業生と教職員約 1000 名に呼びかけて募金活動を行った。追悼法要、思い出を語る会、胸像建立などの事業とともに草刈賞を創設した（会誌「きたかみ」50 号参照）。

《草刈賞選考の趣旨》 草刈遜先生の業績を称え、後世にその教えを伝えるために電気電子工学科、情報システム工学科（改組後にあっては電気電子・情報システム工学科）学生の中から、意欲的な学生を送り後輩の模範となり得る学生の卒業時に草刈賞を授与することによって、学部学生の向学心を啓発することを旨とする。

《選考委員》 電気電子工学科、情報システム工学科、電気電子情報科会から年度毎に選出された各 2 名、計 6 名の委員で選考する（改組後は「科」を「コース」と読み替える）。

《草刈賞授与者と資金》

- ・平成 15 年「草刈先生ご生誕 100 年記念事業実行委員会」が草刈賞創設を工学部長に提案、工学部は岩手大学工学部長名で授与することを決めて承認、岩手大学電気電子情報科会が後援
 - ・資金 240 万円を「岩手大学奨学寄付金」として国庫納付（H15.10.31 草刈賞運用指定）
 - ・メダル 60 個、表彰状 100 枚と表彰楯作製、年度毎の筆耕料等 1,887,900 円支出済み（H20 年 10 月工学部事務長中間報告）
 - ・ご寄附者（受納年度・氏名・卒年）H18 佐藤淳先生、H22 太田原功氏（S30 電）、H22 草刈ファミリー・代表岡本康之氏（S38 電）、H23 池田俊夫先生ご遺族、H23 小野幹夫氏（S19 電）、H23 池田隆夫氏（S35 電）、H24 阿部源祐氏（S16 工専）
- 以上の方々からのご寄附総額 200 万円

《草刈賞委員会の設置》 将来に向けての企画立案、情宣活動、科会から選出する草刈賞選考委員会委員の選出などを任務とする常置委員会として平成 20 年度総会で設置（H20.6.14）。
委員：柏葉安兵衛（会長）、長田洋・木村彰男（理事・事務局）、太田原功（相談役）

《受賞者名》 メダル番号、氏名、(D) 電気電子工学科、(J) 情報システム工学科

第 1 回 (H15 年度) : 001 上和野大輔 (D)、002 菊池孝信 (D)、003 澤田定秀 (D)

004 須藤功平 (J)、005 劉路 (J)

第 2 回 (H16 年度) : 006 阿部雅浩 (D)、007 高橋拓未 (D)、008 菅原潤 (D)、009 小野寺博晃 (J)

第 3 回 (H17 年度) : 010 Latifah Binti MOHAMED (D)、011 甚野伸雄 (D)、012 高橋俊一 (J)、

013 中鶴間愛 (J)

第 4 回 (H18 年度) : 014 下河原孝夫 (D)、015 佐々木隆行 (J)、016 笹本益民 (J)

第 5 回 (H19 年度) : 017 八木一平 (D)、018 村上智哉 (J)、019 阿部めぐみ (J)

第 6 回 (H20 年度) : 020 井関 肇 (D)、021 佐藤勇太 (J)、022 本木友理 (J)、023 吉田亮太 (J)

第 7 回 (H21 年度) : 024 石浦 理 (D)、025 川上勝也 (J)、026 工藤舞衣子 (J)

第 8 回 (H22 年度) : 027 佐藤真麻 (J)、028 高橋佳寿子 (J)

第 9 回 (H23 年度) : 029 大河内駿太郎 (D)、030 多田静香 (D)、031 池田陽 (J)

第 10 回 (H24 年度) : 032 高野光平 (D)、033 太田貴大 (D)、034 松尾亘 (J)

《草刈 遜先生ご略歴》 1904 年 (明治 37 年) 1 月 3 日生～1968 年 (昭和 43 年) 7 月 5 日没

1939 年 (昭和 14 年) 5 月 22 日 盛岡高等工業学校設置、電気科教授初代科長として赴任

1949 年 (昭和 24 年) 学制改革により岩手大学工学部電気工学科教授・学科主任

1960 年 (昭和 35 年) 1 月 1 日 第 4 代工学部長に就任 (任期 2 年)

1967 年 (昭和 42 年) 4 月 1 日 第 7 代工学部長に就任 (任期 2 年)

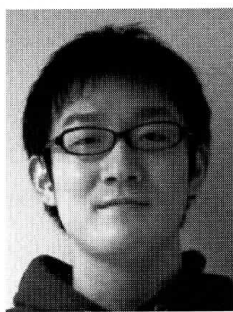
1966 年 (昭和 41 年) 4 月 1 日 電子工学科設置 (4 講座、学生定員 40 名)

1968 年 (昭和 43 年) 4 月 1 日 岩手大学大学院工学研究科修士課程設置を実現

1968 年 (昭和 43 年) 7 月 5 日 工学部長在任中にご逝去 (64 歳)

第10回 (平成24年度) 草刈賞受賞者

電気電子工学コース 高 野 光 平



平成 24 年度の草刈賞を受賞し、はや 1 年が過ぎようとしています。岩手大学での学生生活が、このような形で評価されたことを大変光栄に感じているとともに、お世話になった多くの方々に深く感謝、御礼申し上げます。

上げます。

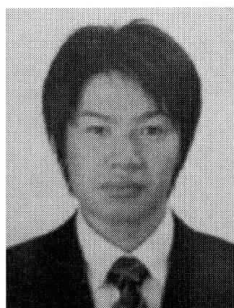
岩手大学での 4 年間を振り返ると、お世辞にも後輩のお手本となるような学生生活ではなかったと思います。しかしながら、曲がり形にも向上心を忘れず、様々なことに挑戦してきたつもりです。

受賞のきっかけとなった、「BBS」というボランティア団体での活動では、数多くの経験を

させていただきました。児童養護施設、自立支援施設などを訪問し、心身障害を持った子や非行少年達と、「ともだち」という形で活動しておりました。一緒に遊ぶ子供たちの楽しそうな笑顔の裏には、深刻な心の闇を抱えている子も多く、衝撃を受けました。ありふれた今の生活が、どんなに幸せで恵まれているのかを痛感させられましたし、そのような子供達に笑顔を届けるこの活動が、どれだけ素晴らしいものであるのかを実感致しました。こういった経験が、今の学生生活にも大きく役立っていると感じています。

現在、来年度からの大学院進学に向け、日々勉学に励んでおります。多くの失敗や挫折もありましたが、目標を見失わず、今後も新しいことに挑戦し続けていきたいと思っています。

電気電子工学コース 太 田 貴 大



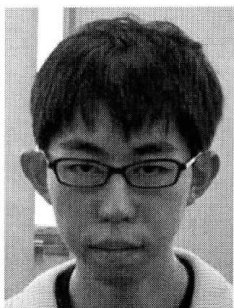
昨年の冬、高木先生から草刈賞のお話を頂き、驚いたのを覚えています。3年次編入学で岩手大学に入り、他の人の半分程度しか在学していない私がこのような賞を頂いて良いのだろうかとも考えました。また、賞なるものを生れてこの方頂いたことがなかったので、どのような気持ちでいただいたら良いかとまどったことも覚えています。

草刈賞を頂いた理由としては、入学前に行っていた東日本大震災の災害ボランティア活動や、人形劇サークル「パペットキッズ」でのボランティア活動、研究室でのエネルギー教育活

動などが挙げられます。東日本大震災の震災ボランティアは、出身地の東松島市で約1か月間、被災住宅の片づけやボランティアセンター運営の手伝いなどを行ってきました。サークル活動では児童館や小学校の子供たちに人形劇を披露したり、一緒に遊んだりといった活動をしてきました。エネルギー教育活動では小学校や高校等で、体験や工作を通してエネルギーを体感してもらう活動を行ってきました。いずれの活動でも、実施した先の方々から笑顔を頂くことができました。

現在は医療機器のメンテナンスに関わる仕事をしていますが、大学までの経験を生かしてお客様から笑顔を頂くことができるように、日々精進していきたいと思っています。

情報システム工学コース 松 尾 亘



草刈賞をいただけると聞いたとき、私は耳を疑ったことを覚えています。当時はまだ、納得できる結果を残せていないと感じていたため、とても驚きました。

受賞理由であるETロボコンへの取り組みを始めたきっかけは、学部2年時に参加したリーダーシップセミナーで誘われたことでした。組み込みシステムとその開発はほとんど馴染みのないことでしたが、自身の成長につながると考え、参加を決めました。参加して1年目は、初めての経験であることに加え、自分の力量不足・知識不足により、満足な結果は出せませんでした。2年目でも、自分の

担当部分ではうまく成果をあげられず、非常に悔しい思いをしましたが、3年目によりやく、納得のいく結果を得ることができました。特に3年目はリーダーも任されており、学ぶことも非常に多かったと感じています。

現在は大学院に進学し、研究や勉学に励んでいます。うまく進まないことも多くありますが、草刈賞の名に恥じることをしないよう努力を重ね、何らかの結果を残せるように、頑張っていきたいと考えています。

最後になりましたが、草刈賞に推薦してくださった先生方、共にETロボコンに取り組んだメンバー全員に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

《支部だより》

平成 25 年度東京支部報告

東京支部長 田 中 健 二 (昭和 49 年電子卒)

東京支部総会・講演会・懇親会は、平成 25 年 10 月 26 日 (土) 14:00 から新宿サンパークビル三平本館 7 階大ホールで開催されました。今回は、会員相互のコミュニケーション活発化のベースとなる「同期会」を支援するため、開催場所を新宿にしました。参加人員は来賓の方々を含め 65 名。科会会長柏葉安兵衛先生、科会顧問藤原民也先生の来賓ご挨拶をいただくとともに、電気電子・情報システム工学科教授高木浩一先生から「高電圧・プラズマ技術の農業・食品分野への応用」について講演をいただき、好評でした。懇親会の最後では、学生歌・同袍寮寮歌・盛岡高等工業学校電気科逍遙歌を斉唱し、新宿エリアでの二次会へと向け散会しました。

なお、平成 26 年度も、同じ場所で、10 月 25 日 (土) に開催します。

今回の支部総会で、

支部長 澤藤隆一氏 (S47 卒)

副支部長 山田 均氏 (S47 卒)

が退任され、新たに

新支部長 田中健二 (筆者) (S49 卒)

新事務局 山道隆男氏 (S62 卒)

が選任されました (澤藤氏は、相談役就任)。

支部総会議事の中で、特に、「支部会員・メールアドレス・データベースの充実」については、「行動指針」が提案され承認が得られました。

本件のポイントは：

1. 紙ベース⇒電子化により、会員間コミュニケーションの「迅速化」、「活発化」、「効率化」促進

2. 「支部会員・メールアドレス・データベース」

の使用用途を明確にすることにより、会員の“本人了解”獲得促進

3. データベース充実の具体策としては、

(1) 学年幹事の方々の協力をベースに、同期会活動からのデータベース充実促進 (知合いの紹介)

(2) 支部ホームページにメールフォームという会員からのメールアドレス登録用入口を設ける (メールアドレス利用目的の明確な通知⇒会員の意思によるメールアドレス登録)

(3) ホームページを一層魅力あるものにしてアクセス数を増やすことによりデータベースの充実

現状のデータ数は、352 個、具体的な活動が始動した 10 月初めからの増加数はまだ 10 個程度ですが、これからに乞うご期待！

きたかみ本誌でも以下の東京支部ホームページを紹介していただけると幸いです。



■東京支部ホームページ <http://iueeitokyo.main.jp> より



新たに設置したメールフォームです。ここから東京支部のメルマガ配信のためのメールアドレス登録を実現しました。又ホームページ上で、個人情報管理強化の観点から使用用途および厳重管理の旨の明記しています。

平成 25 年度仙台支部報告

仙台支部長 佐々木 良 治（昭和 43 年電気卒）

仙台支部では、平成 18 年度に本部の支部活性化特別費の支給を受けてから、科会活性化のため、年 4 回の会員定例集会を開催しています。1 月の新年会、4 月の長寿者（満 80 才）を祝う会・お花見、6 月の総会・会員講演会、10 月の会員卓話等です。総会を除くこれらの行事は、当初は役員中心の出席でしたが、メールアドレスを登録していただいている会員の皆さまへの呼びかけにより、徐々に参加者が増加してきています。次年度以降も活性化事業を継続していく予定ですので、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

平成 25 年の最初の行事である新年会は、平成 25 年 1 月 19 日に開催されました。最年長の阿部相談役にもご参加いただき、年始にあたり各人の抱負、景気動向、参加した 20 才台前半の若者 3 名に対して先輩風を吹かせたりして大いに盛り上がりました。

第 5 回長寿者を祝う会は、伊藤氏（S 31 電気）の参加により 4 月 20 日に開催されました。花束と記念品の贈呈により、ますますのご長寿

をお祝いしました。

仙台支部総会は、ご来賓として柏葉会長ならびに岩手大学長田教授をお迎えし、6 月 29 日に開催されました。総会は、千葉副支部長の司会で進められ、予定されていた議題は原案どおり承認されました。総会に引き続き長田教授（S 62 電気）より「植物由来の制御アルゴリズムとその産業応用」および数藤副支部長（S 52 電気）より「実践『太陽光発電：固定価格買取制度』」と題してご講演をいただきました。懇親会は、数藤副支部長の司会で進められ、お互いの近況報告、講演内容についての質問、震災の復旧状況、アベノミクスと景気予想などが話題となりました。最後には、例年のように全員が輪になり肩を組みながら同胞寮歌を唱和してお開きになりました。

会員卓話は、11 月 9 日に開催され、田代氏（S 55 電気）より「仙台市地下鉄東西線の工事状況」と題し、平成 27 年度開業に向けての工事進捗状況、駅デザイン、車両デザインとその特徴などについてお話をいただきました。



平成25年 6 月29日 ハーネル仙台

《支部だより》

平成 25 年度盛岡支部報告

盛岡支部長 旗 福 寛（昭和 38 年電気卒）

平成 26 年新年会は下記のように行われました。

1. 日時：平成 26 年 1 月 25 日(土) 午後 3 時より
2. 会場：岩手県公会堂 21 号室
3. 会費：4000 円 参加者 28 名

会の進行は支部長の務めとして旗福が勤めました。

はじめに柏葉会長から新年のご挨拶があり、その中で昨年定年退職された藤原民也先生のご紹介を頂きました。続いて藤原先生への花束贈呈は平成 2 年藤原研究室出身の村田崇さん（岩手日報社）にお願いしました。そこで藤原先生からのお礼のお言葉がありました。そのお話の中でこの会場、公会堂 21 号室のウィリアム・モリスの花蔓模様の壁紙について解説をいただきました。乾杯は昭和 24 年卒業の太田圭一先生にお願いしました。太田先生は長年工業高校の教師をお勤めになりましたが 60 年以前、学

生時代に合唱仲間とこの公会堂ホールで歌った思い出をお話されました。東京支部長の田中健二さん、仙台支部長の佐々木良治さん、数十年ぶりの御出席でほぼ初参加といってもよい一関工専名誉教授の飯岡圭輔先生等々の皆さんからスピーチを頂きました。

これまでの会場が防災補強工事などで使えないことになったので今回は岩手県公会堂に交渉してみました。公会堂は昭和天皇の皇太子時代に、ご成婚を記念して建設され、昭和 2 年に竣工しました。創建時の公会堂は、県会議事堂・大ホール（創建時千席、現在八百席）・西洋料理店・皇族等の宿泊所などの用途を備えておりました。新年会の会場 21 号室には室内バルコニーがあり創建時には公会堂多賀の大食堂だったという部屋でした。来年の新年会もここでいうことになるかもしれません。よ



背後の壁紙がウィリアム・モリスの花蔓模様

平成 25 年度電気電子情報科会総会

平成 25 年度総会は、平成 25 年 6 月 15 日（土）盛岡市大沢川原の岩手労働福祉会館において 31 人の参加で開催されました。

平成 3 年情報卒の木村彰男理事の司会で始まり、議長に昭和 42 年電気卒の久保田賢二氏、書記に昭和 61 年情報卒の立花龍一氏と平成 20 年電気修了の阿部貴美氏が選任され、議長の議事進行により第 1 号議案から第 4 号議案まで異議なく承認されました。

その他議案で会長より、科会にご協力いただいた元電気電子工学科教授藤原民也先生に顧問に就任していただきたいとの提案があり、全会一致で承認されました。

また、第 4 代会長で相談役岡田整八氏（昭和 18 年工専卒）と理事井上隆志氏（昭和 40 年電

気卒）のご逝去の報告があり、科会へのご尽力に感謝するとともに哀悼の意を表しました。

「東日本大震災 ～報道現場から～」と題しての総会特別講演は、昭和 44 年電気卒の宮手敏雄氏があの非常時での岩手日報の技術者としての対応など、時間を追って話して下さいました。

その後の懇親会は鳥谷部副会長の進行で、会長挨拶に続きご来賓の今野晃市教授にご祝辞をいただきました。また、瑞宝中綬章を受章された元情報工学科教授高浪五男先生に花束を贈呈し、お話しを伺いました。東京から参加していただいた昭和 37 年電気卒の四戸弘道氏の乾杯や各支部長のスピーチで最後まで和気あいあいと進められました。



平成25年度 岩手大学電気電子情報科会総会

平成25年6月15日 盛岡 岩手労働福祉会館

平成 25 年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録

日時：平成 25 年 6 月 15 日（土）
15：00～15：45
場所：岩手労働福祉会館
議長：久保田賢二（理事、電気 S42）
書記：立花 龍一（理事、情 S61）
阿部 貴美（電修 H20）

・第 1 号議案、第 2 号議案

事務局より平成 24 年度事業（きたかみ 59 号発行、正会員歓迎会、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動）についての概要報告があった。特に正会員歓迎会は例年より多くの新入会員・大学院生が参加したことが報告された。関連して平成 24 年度の決算報告が行われた。続いて及川会計監査より監査報告が行われ、異議なく承認された。

・第 3 号議案、第 4 号議案

はじめに、平成 25 年度事業計画について、

事務局から以下の説明がなされた。
－きたかみ 60 号発行、正会員歓迎会、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動はこれまで同様に行う予定であること。
引き続き、上記事業計画を勘案した平成 25 年度の予算案について報告があった。年会費納入（10 年分 1 万円）を、きたかみ 60 号で呼びかけることも説明された。
異議なく承認された。

・その他議案について

柏葉会長から、藤原民也氏（元電気電子工学科学教授、特別会員）を科会の顧問に推薦することが提案され、全会一致で承認された。後日、就任要請を行う。
また、井上隆志理事と岡田整八相談役が亡くなられたことが報告された。

平成 25 年度電気電子情報科会役員名簿

（平成 26 年 1 月 1 日現在）

役 職 名	氏 名	卒業（卒回）	役 職 名	氏 名	卒業（卒回）
会 長	柏 葉 安兵衛	S 38（気 11）	東京支部		
副 会 長	千 葉 則 茂	50（気 23）	幹 事	四 戸 弘 道	S 37（気 10）
副 会 長	鳥 谷 達 雄	56（情 3）	幹 事	松 本 洋 一	40（気 13）
副 理 事	柳 橋 好 子	45（子 1）	幹 事	薄 衣 文 雄	41（気 14）
理 事	小 野 寺 瑞 穂	29（気 2）	幹 事	岡 山 茂 久	45（電 18）
理 事	吉 田 英 夫	41（気 14）	幹 事	小 磯 巖 男	51（気 24）
理 事	久 保 田 賢 二	42（気 15）	幹 事	畠 山 主 弘	54（情 1）
理 事	立 花 龍 一	61（情 8）	幹 事	古 澤 和 弘	54（情 1）
理 事・事 務 局	柳 橋 好 子	45（子 1）	幹 事	古 山 寧	59（子 15）
理 事・事 務 局	長 田 洋	62（気 35）	幹 事	中 山 靖 茂	H 4（気 40）
理 事・事 務 局	木 村 彰 男	H 3（情 13）	盛岡支部		
理 事・盛岡支部長	旗 福 寛	38（気 11）	幹 事	宮 手 敏 雄	44（気 17）
理 事・東京支部長	田 中 健 二	49（子 5）	幹 事	岡 英 夫	48（子院 4）
理 事・仙台支部長	佐々木 良 治	43（気 16）	幹 事	杉 村 洋 一	49（子 5）
会 計 監 査	及 川 二 千 朗	38（気 11）	幹 事	池 内 達	50（子 6）
会 計 監 査	大 坊 真 洋	H 11（電電情専）	幹 事	佐 藤 信	57（子 13）
顧 問	佐 藤 淳 一	特 特	幹 事	佐 藤 文 昭	59（子 15）
顧 問	志 田 純 夫	特 特	幹 事	泉 澤 栄 浩	60（子 16）
顧 問	佐々木 經 民 也	特 特	幹 事	高 橋 康 浩	62（気 35）
相 談 役（元会長）	藤 原 源 祐	16（専 1）	幹 事	佐々木 正 嗣	62（子 18）
相 談 役（元会長）	阿 部 長 一	19（専 4）	仙台支部		
相 談 役（元会長）	山 崎 時 男	24（専 8）	幹 事	小 原 四 郎	37（気 10）
相 談 役（元会長）	太 田 原 功	30（気 3）	幹 事	菅 原 利 一	55（気 28）
相 談 役（元会長）	佐々木 喜 八 郎	28（気 1）	幹 事	田 代 良 二	55（気 28）
			幹 事	佐 藤 雄 一 郎	H 3（気 39）
			幹 事	柏 葉 安 宏	H 9（電電 2）

平成 25 年度電気電子・情報システム工学科の構成員名簿

平成 26 年 1 月 1 日現在

電気電子工学コース (コース長 長田 洋 教授)			情報システム工学コース (コース長 安倍 正人 教授)		
分野	職 名	氏 名	分野	職 名	氏 名
電子デバイス工学	授 授 授	夫 英 岡 芽 数 西 治 政 向 郎 宏 小 一 榮 叶 彬 真 野 司 健 崎 司 健 浦 三	コンピュータ・ネットワーク工学	授 授 授	人 正 倍 安 昭 泰 谷 西 史 仁 田 永 司 貴 山 平 信 豊 藤 佐 太 克 岡 藤 久 山 中 山
	教 教 教			教 教 教	
	准 准 准			准 准 准	
電子システム工学	授 授 授	隆 佳 川 恒 洋 真 田 長 洋 尚 坊 大 樹 宏 間 本 明 佐 藤 佐	知能情報処理システム工学	授 授 授	清 山 讓 二 輪 天 久 森 彰 海 村 彦 男 村 祈
	教 教 教			教 教 教	
	准 准 准			准 准 准	
電気エネルギー工学	授 授 授	一 浩 木 高 也 晋 田 成	メディアシステム工学	授 授 授	茂 則 葉 千 市 晃 野 今 博 忠 本 藤 也 卓 石 明 司 直 谷 中 胤 克 山 松 る ひ 田 懸
	教 教 教			教 教 教	
	准 准 准			准 准 准	

技 術 部													
工 学 系 技 術 室	職 名			氏 名			情 報 技 術 室	職 名			氏 名		
	技 術 室 長	技 術 専 門 員	技 術 専 門 員	千 葉 茂 樹	太 田 康 治	那 須 川 徳 博		技 術 室 長	技 術 専 門 職 員	技 術 専 門 職 員	栗 田 宏 明	金 野 哲 士	田 頭 徹
	技 術 専 門 員	技 術 専 門 職 員	技 術 専 門 職 員	星 原 勝 徳	萩 原 由 香	千 葉 司 里							
	技 術 専 門 職 員	技 術 専 門 職 員	技 術 専 門 職 員	庄 司 壽	志 田 こ ず え	古 館 正 明							
	技 術 専 門 職 員	技 術 専 門 職 員	技 術 専 門 職 員	佐 藤 寛	古 館 明 通	川 井 研 一							
	技 術 職 員	技 術 職 員	技 術 職 員	藤 沼 重 雄									
	技 術 補 佐 員	技 術 補 佐 員	技 術 補 佐 員										
	技 術 補 佐 員	技 術 補 佐 員	技 術 補 佐 員										
	技 術 補 佐 員	技 術 補 佐 員	技 術 補 佐 員										
	技 術 補 佐 員	技 術 補 佐 員	技 術 補 佐 員										

平成 25 年 年表

1/17	「きたかみ」編集委員会、理事会・新年会打合せ、会費検討委員会 会長・鳥谷部副会長・旗福盛岡支部長・事務局 3 人 岩手大学工学部
1/19-20	大学入試センター試験
1/24	「きたかみ」編集委員会 校正その他 会長・事務局 3 人 岩手大学工学部 草刈賞委員会 選考委員 電気電子工学科：長田 洋（電気電子工学コース長）・高木浩一（4 年生担任） 情報システム工学科：西山 清（情報システム工学コース長）・吉森 久（4 年生担任） 電気電子情報科会：柏葉安兵衛（会長）・太田原 功（相談役・選考委員長）
1/25	電気電子工学特別講義 「技術屋の社長業」長田雅裕氏氏（エス・エス・デー）、「プラズマ排ガス処理用高電圧電源の開発について」 三浦友規氏氏（澤藤電機）
1/25	第 12 回「コミュニケーションデザインセミナー」 ＜岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ主催＞ 招待講演「デザイナーからキュレーターへーデザイン街に出るー」岡本誠氏（公立はこだて未来大学教授）
1/26	24 年度第 3 回理事会 15 人 岩手労働福祉会館 盛岡支部・科会新年懇親会 22 人
1/29-1/30	平成 25 年度大学院博士前期課程第 2 期入学者選抜試験《平成 25 年 4 月入学》。電気電子・情報システム工学専攻 10 名合格（うち、私費外国人留学生 1 名）
1/31	平成 25 年度大学院博士後期課程第 2 期入学者選抜試験《平成 25 年 4 月入学》。電気電子・情報システム工学専攻 志願者なし
2/1	入学願書受付締切。電気電子・情報システム工学科：前期 1.9 倍、後期 5.7 倍
2/1	第 11 回「コミュニケーションデザインセミナー」 ＜岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ主催＞ 招待講演「将来の技術トレンドと NTT データの取組」板屋一嗣氏（NTT データグループ経営企画本部課長）
2/1	第 13 回「コミュニケーションデザインセミナー」 ＜岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ主催＞ 招待講演「コンピュータセキュリティに対する今後の取り組み」山内正氏（株式会社シマンテック総合研究所代表 取締役社長）
2/8	藤原民也先生最終講義「放電プラズマとともに 40 年 あれやこれや」
2/8	弔電 井上隆志氏（電気 40 年卒）
2/13	電気電子・情報システム工学専攻（電気電子工学分野）修士論文審査会
2/21	谷口 宏先生最終講義「光子に関する研究とともに」
2/20	情報システム工学専攻（情報システム工学分野）修士論文審査発表会
2/21	山田 弘先生最終講義「液体絶縁物に入り原子核を見つめて」
2/21	「きたかみ」編集委員会 校正その他 会長・事務局 3 人 岩手大学工学部
2/22	第 16 回「コミュニケーションデザインセミナー」 ＜岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ主催＞ 招待講演「広告業界の話ーアートと IT の応用」丸山安曇氏（博報堂 DY メディアパートナーズビジネスディベロッ PMENTスーパーバイザー）
2/25	平成 25 年度個別学力検査前期日程。電気電子・情報システム工学科 86 名合格
2/25	第 15 回「コミュニケーションデザインセミナー」 ＜岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ主催＞ 招待講演「無線通信を支える小形アンテナ解析技術」森下久氏（防衛大学校電気電子工学科教授）
2/26	弔電 千葉智行氏（電気 28 年卒）
2/27	第 14 回「コミュニケーションデザインセミナー」 ＜岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ主催＞ 招待講演「コンピュータ科学の楽しさを伝える教育手法」兼宗進氏（大阪電気通信大学教授）
2/28	電気電子工学科卒業研究発表会
3/1	厚井裕司先生最終講義「ネットワーク技術は何（過去、現在、将来）をつなぐのか」
3/1	「きたかみ」59 号発行 5200 部
3/6	新正会員歓迎会 88 人（新正会員・院生 64 人）岩手大学工学部生協食堂
3/12	平成 24 年度個別学力検査後期日程。電気電子・情報システム工学科 16 名合格
3/12	弔電 菊地政四氏（電気 47 年卒）
3/22	第 17 回「コミュニケーションデザインセミナー」 ＜岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ主催＞ 招待講演「プログラムの可読性とセキュリティ」玉田春昭氏（京都産業大学コンピュータ理工学部助教）
3/23	岩手大学卒業式・修了式 工学部第 61 回卒業生：電気電子工学科 1 名、情報システム工学科 10 名、電気電子・情報システム工学科 108 名（電 気コース 50 名、情報コース 58 名） 大学院博士前期課程第 44 回修了生：電気電子・情報システム工学専攻 59 名 大学院博士後期課程第 14 回修了生：電気電子・情報システム工学専攻 1 名
3/25	電気電子工学特別講義 「FDTD 法によるアンテナ / 電磁波解析」有馬卓司氏（東京農工大学工学部電気電子工学科講師）、「マルチユーザ MIMO の基礎」西森健太郎氏（新潟大学工学部情報工学科准教授）
3/31	電気電子工学コース 藤原民也教授、山田弘教授、谷口宏教授 定年退職、高橋和貴助教 退職 情報システム工学コース 厚井裕司教授 定年退職、鈴木正幸准教授 退職
4/7	岩手大学入学式 工学部入学生：電気電子・情報システム工学科 126 名 3 年次編入学生：電気電子工学コース 3 名、情報システム工学コース 4 名 大学院博士前期課程入学生：電気電子・情報システム工学専攻 36 名 大学院博士後期課程入学生：電気電子・情報システム工学専攻なし
4/20	弔電 小野寺敬夫氏（電気 23 年卒）
5/17	科会会計監査 及川二千朗監事・大坊真洋監事・柏葉会長・柳橋理事 岩手大学工学部
5/23	会長事務局打合せ 理事会提案事項について 柏葉会長・事務局 3 人 岩手大学工学部
5/23	科会平成 25 年度第 1 回会費検討委員会 鳥谷部委員長・柏葉会長・事務局 3 人 岩手大学工学部
5/23-24	電気電子工学コース スポーツ大会
5/25	平成 25 年度第 1 回理事会 平成 25 年度総会提案事項審議等 16 人 岩手労働福祉会館
5/30	電気電子工学特別研修 「技術者の仕事とビジネス / 経営マインド」田中健二氏（アンリツ株式会社、代表取締役副社長）

5/ 下 -6/ 上	情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成25年9月修了予定者》および中間発表会《平成26年3月修了予定者》 (分野別に実施)
6/1	開学記念日
6/9	【開学記念講演会】 記念講演「宇宙誕生の謎に挑む国際リニアコライダー計画 (ILC) ～先端加速器科学とその応用～」吉岡正和氏 (高エネルギー加速器研究機構名誉教授) トークセッション「ILC誘致によって岩手はどう変わっていくのか? - スイスCERNを事例に」吉岡正和氏× 神山浩樹氏 (IBC 岩手放送アナウンサー) 【開学記念園遊会】 岩手大学農学部付属植物園内 弔電 岡田整八氏 (専門18年卒)
6/12	電気電子工学特別研修
6/13	「電気系窮地からの脱出と飛翔に向けて」澤藤隆一氏 (株式会社チノー 参与, 三基計装株式会社 前社長) 岩手大学システム理工学系講演会, 「3D をビジネスにすること - ITベンチャー創業の経験から -」鳥谷浩 志氏 (ラティス・テクノロジー株式会社代表取締役社長)
6/15	盛岡支部総会 岩手労働福祉会館
6/15	平成25年度岩手大学電気電子情報科会総会 31人 岩手労働福祉会館 平成24年度事業報告・決算報告、平成25年度事業計画・予算 講演「東日本大震災～報道現場から～」宮手敏雄氏 (電気44年卒)
6/27-28	平成25年度一般編入学者選抜試験 電気電子工学コース15名合格, 情報システム工学コース5名合格
6/29	仙台支部総会 ハーネル仙台
7/4	電気電子工学特別研修 「地球の環境と再生可能エネルギー、持続可能性とは」山崎慶太氏 (竹中工務店東京本店開発営業グループ)
7/9	平成25年度大学院博士前期課程推薦入学者選抜試験 電気電子・情報システム工学専攻4名合格
7/18	第18回「コミュニケーションデザインセミナー」 ＜岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ主催＞ 招待講演「東日本大震災に学び「しなやかな」地域社会の構築について考える」曽根好徳氏 (名古屋大学減災連携 研究センター教授)
8/1	電気電子工学特別研修 「次世代無線LANにおける高速化技術」鷹取泰司氏 (日本電信電話株式会社 NTT 未来ねっと研究所 主幹研究員)
8/6	オープンキャンパス
8/7	情報システム工学コース スポーツ大会
8/21	電気電子・情報システム工学専攻 (電気電子工学分野) 修士論文審査会 (9月修了)
8/21	会長事務局打合せ 柏葉会長・事務局3人
8/21	科会平成25年度第2回会費検討委員会 鳥谷部委員長・柏葉会長・事務局3人 岩手大学工学部
8/24	平成25年度第2回理事会 25年度事業について 14人 岩手労働福祉会館
9/3-4	平成25年度大学院博士前期課程入学者選抜試験《平成25年10月入学》電気電子・情報システム工学専攻合格者 なし 平成26年度大学院博士前期課程入学者選抜試験《平成26年4月入学》電気電子・情報システム工学専攻40名合格 平成25年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成25年10月入学》電気電子・情報システム工学専攻志願者な し 平成26年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成26年4月入学》電気電子・情報システム専攻1名合格
9/20	電気電子工学科工場見学《東北地区》(岩手東芝エレクトロニクス, 東京エレクトロン東北), 引率: 西館数芽教授, 叶榮彬助教 (参加者36名)
9/24-26	電気電子工学科工場見学《関東地区》リコー中央研究所, 東芝 浜川崎工場, 鹿島技術研究所 西調布実験所, 東洋 電機製造, 引率: 西館数芽教授, 向川政治准教授 (参加者39名)
9/25	平成25年度岩手大学修了式・卒業式 (農業教育資料館) 工学部卒業生: 情報システム工学科1名 大学院博士前期課程修了生: 電気電子・情報システム工学専攻1名 大学院博士後期課程修了生: 電子情報工学専攻1名
9/ 下 -10/ 上	電気電子・情報システム工学専攻 (電気電子工学分野) 修士論文中間審査
10/1	岩手大学入学式 (平成25年度10月入学者)
10/19	オープンキャンパス (大学祭)
10/26	東京支部大会 70人 新宿サンパークビル本館
11/1	電気電子工学特別研修 「ブロードバンド無線通信の実用化」堀 俊和 氏 (福井大学工学部教授)
11/1	第19回「コミュニケーションデザインセミナー」 ＜岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター・コミュニケーションデザイン研究グループ・一人やコミュ ニティとのコミュニケーションデザイン分野へ主催＞ 招待講演「電磁波工学とその通信システムへの応用 - 電気回路と電磁波の放射 -」宇野亨氏 (東京農工大学教授)
11/8	電気電子工学特別研修 「打つ手は無限!! サラリーマンから会社創業へ」黒枝浩二氏 (株式会社インテック 代表取締役)
11/15	電気電子工学特別研修 「ブレイクスルー・イノベーションと未来産業の創造」山口栄一氏 (同志社大学大学院総合政策科学研究科)
11/29	電気電子工学特別研修 「有機半導体材料とその応用」吉野雄信氏 (株式会社フジクラ 環境・エネルギー研究所)
11/29	「きたかみ」第1回編集委員会、第3回理事会打合せ 柏葉会長・事務局3人 岩手大学工学部
11/ 下 -12/ 上	情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成26年3月修了予定者》および中間発表会《平成26年9月修了予定者》 (分野別に実施)
12/1	金天海氏を情報システム工学コース准教授に採用
12/1	弔電 砂子田融氏 (昭和17年卒専門2回)
12/7	平成25年度第3回理事会 「きたかみ」60号について、会長選考委員会について他 13人 岩手労働福祉会館
12/13	電気電子・情報システム工学専攻 (電気電子工学分野) M1 中間発表会
12/21	平成25年度情報処理学会東北支部研究会
12/25	科会平成25年度第3回会費検討委員会 鳥谷部委員長・柏葉会長・旗福盛岡支部長・事務局3人 岩手大学工学 部
12/25	「きたかみ」第2回編集委員会、新年会打合せ 柏葉会長・鳥谷部副会長・旗福盛岡支部長・事務局3人 岩手大学工学部
12/26	第3回ソフトパス工学総合研究センターシンポジウム ＜岩手大学工学部付属ソフトパス工学総合研究センター主催＞ 招待講演「科学技術とデザイン」田浦俊春氏 (神戸大学教授・自然科学系先端融合研究環長) コミュニケーションデザイン研究グループの紹介「(1) 研究グループ説明, (2) 各研究プロジェクトの取り組みから(6 件)」

岩手大学電気電子情報科会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、並びに岩手大学工学部電気系工学科及び大学院工学研究科電気系工学専攻の傘下に集った者の親睦を図り、緊密な連絡を取り、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学工学部電気系工学科に置く。
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

第2章 会 員

- 第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第6条 特別会員は岩手大学工学部電気系工学科の現・旧教職員とする。
- 第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気系工学科卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気系工学専攻修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第8条 準会員は岩手大学工学部電気系工学科の在校生並びに岩手大学大学院工学研究科電気系工学専攻学生のうち正会員でない者とする。

第3章 会 計

- 第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。
基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。
尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

第4章 会 議

- 第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。
理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を以て構成する。
- 第13条 総会は毎年1回会長がこれ招集して出席人員を以て成立する。
- 第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認めた時、会長がこれを招集する。
- 第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

第5章 役 員

- 第16条 本会に次の役員を置く。
- | | | |
|------|------|-----------------------------------|
| 会 長 | 1名 | 正会員より選出する。 |
| 副会長 | 3名以内 | 正会員より選出する。 |
| 理 事 | | 正会員より互選する。
尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
| 会計監査 | 2名 | 正会員より選出する。 |
| 幹 事 | | 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。 |
| 顧 問 | 若干名 | 特別会員より会長がこれを委嘱する。 |
| 相談役 | | 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。 |

- 第17条 各役員の任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。

- 第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。
副会長は会長を補佐する。
理事は本会の庶務を掌理する。
会計監査は会計を監査する。
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。

- 第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

第6章 会誌、講演会及び座談会

- 第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。
- 第21条 講演会及び座談会は随時行う。
- 第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

付 則

- 本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。

(昭和17年1月1日制定)
(昭和25年度総会一部改正)
(昭和37年度総会一部改正)
(昭和40年度総会一部改正)
(昭和41年度総会一部改正)
(昭和46年度総会一部改正)
(昭和50年度総会一部改正)
(昭和51年度総会一部改正)
(昭和56年度総会一部改正)
(平成4年度総会一部改正)
(平成11年度総会一部改正)
(平成12年度総会一部改正)
(平成15年度総会一部改正)
(平成20年度総会一部改正)
(平成21年度総会一部改定)
(平成22年度総会一部改定)

“地球は丸かった”

(地球一周クルーズ体験談)

伊 藤 稜 威 (昭和 40 年電気卒)

<はじめに>

私は松下電工(株)(現パナソニック株)を定年退職後11年間、環境(ISO)コンサルタントとして活動してきました。その仕事のため、長年クルーズ、特に地球一周をしたいと考えていたのですが実行できませんでした。しかし、古希を迎え体力面、気力面を考えて、今がチャンスと考え、2年前より仕事を抑制し実行準備に取りかかりました。いろいろ検討した結果ピースボート(以下、PB)での地球一周の旅に決めました。今回、電気電子情報科会員の皆さまにお伝えしたいのはその体験談です。

まず、旅行の内容についてご説明いたします。私が参加したPB主催第80回クルーズは、期間2013年7月18日～10月10日の85日間、乗客数約800人、乗員数約400人のものです。訪問国はアジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカの5大陸19カ国です。また、スエズ運河、パナマ運河を通過しました。乗客の多くは日本人ですが、乗員の多くは外国人で、その出身国は25カ国に及びます。船はオーシャンドリーム号(パナマ船籍、35,265トン、1980年建造)で出港地、寄港地とも横浜港です。



<船室と費用について>

窓なし4人部屋は109万円、窓付き個室は285万円、ペアで経済的余裕のある方には特別室(バルコニー、バスタブ付き)があり2人分で696万円です。ちなみに私は1人で参加し、

窓付き個室285万円でした。この他にオプショナルツアーなど他の諸費用が約30万円必要で総額は315万円となりました。

なお、本文はPBに限って記した私個人の主観に基づくものです。まず、PBは“富裕層が乗る豪華客船”ではありません。また観光については市販の旅行ガイドブックやDVDの映像に譲り、今後PBでのクルーズを検討されている科会会員の皆さまの参考になることを重点に報告させていただきます。

<このクルーズのプラスイメージ>

- ① PBで用いるオーシャンドリーム号は比較的小さくパナマ運河を通過できるので、日数を短く、費用を安くできます。一方10万トン級の豪華客船はパナマ運河を通過できず、マゼラン海峡回りになるため、日数が長く費用は高くなっています。したがって豪華客船での地球一周の旅は日本では2～3年に1回しかチャンスがありません(PBは毎年2～3回実施)。
- ② PBは費用が安く、年に2～3回もあるために、この船の乗客は富裕層が少なく、一般の人が多いです。性別、年齢、職業など多様な人が乗っています。また服装やテーブルマナーなどには厳しくなく、正装するのは月1回のディナーの日ぐらいです。
- ③ このような老若男女の集団ですのでいろいろなドラマが生まれます。ドラマの一例としては、船内で60代のシニア同志のカップルが誕生しました。また別の例としては、若いカップルが船内で結婚披露宴をしました。私は孫のような世界の美女たちとダンスや食事をしてクルーズを楽しむことができました。
- ④ PBには地球大学、語学教室、保育園、グローバルスクールなどがあり、専門家による教育が行われています。またその地球大学の学生から要望があったため、私は本職を生かして「福島原発の歴史的・社会的背景」と題して特別講義を行い、好評を得ました。また、ドイツの女性大学教授ミランダ博士と自然エネ

ルギーについて議論しました。

- ⑤各種セミナーの開催：国内外の学者、ジャーナリスト、評論家、芸能人などが乗船し、政治、文化、歴史などのセミナーが毎日2～3回開催されます。ただし反戦、平和、人権、脱原発など政治的には革新系のテーマがやや多いようです。したがって純粋に観光目的で参加するのであれば、この船のクルーズに違和感があるかもしれません。

<このクルーズのマイナスイメージ>

- ①海賊対策：ソマリア沖のインド洋では海賊対策のため、日本船が10隻ほど船団を組み、船団の先頭と末尾を日本の自衛艦が護衛してくれました。この件に関しては、PBは海賊対策での自衛隊派遣に反対していたにもかかわらず、ここでは自衛隊の助けを借りるという矛盾を感じました。
- ②船が古く（33年前に建造）設備が大変悪いことが挙げられます。まず空調が全くコントロールされず寒すぎますので冬服も必要です。それに加えて乾燥していて、多くの乗客が風邪やインフルエンザにかかりました。私も風邪に2回かかり、各2週間計1カ月苦しみました。
- ③通信設備は不便で、情報入手が困難です。まず、テレビは船内放送しか映りません。電話、FAX、PCの使用は高価なため、多くの乗客は使いません（私は電話、PCは1回も使わず、FAXを使いました）。また携帯電話は洋上では使えません。このため、日本の情報入手および家族との連絡に苦労します。浦島太郎状態で、乗客によってはホームシックになります。
- ④人間関係：PBの109万円で地球一周の宣伝を信用して4人部屋を選ぶと、人間関係で悩むリスクがあります。4人が意気投合して兄弟姉妹のように仲良くなる人たちがいる一方、気が合わない人と相部屋になると大変苦労するようです。部屋替え、途中帰国にまで悪化することもあります。いずれも多額の費用負担になりますので、この費用負担に耐えられない人は地獄のように苦しい旅行を続けることになります。

<快適な旅行するための提案>

マイナスイメージの事態を避けて快適な旅行

にするために次のようなことをご提案いたします。まずPBの109万円で地球一周という宣伝に惑わされないことです。予算の関係もあると思いますが、夫婦、家族などペアで2人部屋がベターです。一人旅の方は出来るだけ個室をお勧めします。病気、怪我に関しては、事前に人間ドックなどの身体検査を受けること、持病があれば薬を3カ月分持参すること、また海外旅行保険に入ることを強く勧めます。

次に十分な事前調査が重要です。2年ぐらい前から横浜、神戸、名古屋、博多などで開催されるPBの船内案内会に参加し、船室の種類と船内設備について良く知っておくこと、疑問点はPBスタッフに質問して理解しておくことです。できればこの船でショートクルーズを体験することをお勧めします。PBは地球一周の合間に、年2回位、日本近海または韓国、台湾、中国への10日間程度のショートクルーズを行っています。これで、船酔い、食事、イベント、人間関係などを肌で感じてくることができます。いきなり事前準備なしで乗船すると上記のようなリスクの確率が高くなると思われるので要注意です。

以上PBのクルーズについてご報告いたしましたが、今後このクルーズで地球一周をご検討されている科会会員の皆さまにとって微力ながら役に立てれば幸いに存じます。

<おわりに>

このクルーズで地球を丸く感じたのは、子午線と日付変更線を越えたときです。また全行程で24回時差調整がありました。子午線も日付変更線も地図と地球儀上の線であって船からも航空機からも見えません。国境線も同様です。人間はなぜ戦争をするのでしょうか？国境は人間が勝手に決めたものです。EUでは国境の壁が低くなって通貨が統合され、パスポートなしの入出国が可能となりました。東アジア（日本・中国・韓国）では領土問題の早期解決を願っています。

最後にこうして誰でも容易に地球一周のクルーズができる時代となりましたが、15世紀末から16世紀初めコロンブス、バスコ・ダ・ガマ、マゼラン等の命をかけた冒険によって地球が丸いことが証明されました。先人の努力と勇氣に感謝してこの旅行記のおわりといたします。

「きたかみ」60号トピックス

新年会のスナップです。
お久しぶりの顔もありました。



編集後記

関東地方や沿岸などの雪の少ない地域の記録的な積雪や事故のニュースが流れております。「そちらは大丈夫ですか」とご心配の電話をいただきました。
ところが、盛岡は例年になく雪が少なく白鳥も帰りを急いでいるように感じます。

「きたかみ」60号をお届けします。還暦という事で赤い表紙にしましたがいかがでしょうか。
「60号に寄せて」と題して巻頭言を16年卒の阿部源祐氏にお願いしました。各支部からも寄せていただきました。そして「きたかみ」にみる科会の歩みを太田原相談役がまとめて下さいました。
岡田元会長の追悼文を山崎相談役にお願いしました。理事会の席で、葬儀の時に一祐会として小野寺理事（一祐会副会長）が奉呈された弔辞がとても心に染みしたので載せてはどうかと話ができましたので小野寺理事に相談し、一祐会の了解を得て掲載させていただきました。

毎号、総会特別講演の内容を掲載しますが、今回の岩手日報社の宮手敏雄氏の講演は、第58号に掲載されております。あの震災・大津波・東電福島原発の事故から3年になります。
復興はまだですが、ソチオリンピックの選手たちから諦めずに立ち向かう勇気を教えられた私たちも、あの震災を絶対に忘れることなく息の長い支援・応援を続けて行きたいものです。

また、古い卒業生には懐かしい富樫泰規さんが亡くなりました。電気の事務室で学生の世話をしていた温厚な顔が浮かびます。心からご冥福をお祈りいたします。

ご寄稿いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。また、至らぬ点があるかと思いますが、お許しいただきますようお願いいたします。

編集委員 柏葉 安兵衛（会長：昭和38年電気卒）
長田 洋（事務局：昭和62年電気卒）
木村 彰男（事務局：平成3年情報卒）
柳橋 好子（事務局：昭和45年電子卒）

きたかみ 第60号

発行日 平成26年3月1日
発行者 盛岡市上田4丁目3番5号
岩手大学工学部内
岩手大学電気電子情報科会
☎019-621-6381
印刷所 ㈱阿部謄写堂
盛岡市本町通2丁目8番37号
☎019-623-2361

平成 26 年度総会並びに懇親会開催のご案内

平成 26 年度の電気電子情報科会総会は、下記のように開催することになりましたので御案内申し上げます。仙台支部総会も併せて行います。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

なお、住所や勤務先等の確認にも使用させていただきますので、綴り込みのハガキで総会への出欠を、1 ヶ月前の平成 26 年 5 月 21 日までにご連絡を頂きたいようお願い申し上げます。

記

日 時 平成 26 年 6 月 21 日 (土)
草刈先生墓参 午後 1 時 00 分
(ご希望の方) 輪王寺
仙台支部総会 午後 2 時 00 分
本部総会・講演会等 午後 3 時 00 分
本部・支部合同懇親会 午後 5 時 00 分～7 時 00 分

場 所 ハーネル仙台
仙台市青葉区本町 2 丁目 12-7
TEL 022-222-1121

議 題 1. 平成 25 年度事業報告、決算・監査報告承認
2. 平成 26 年度事業計画案、予算案審議
3. その他

講演会 演題「岩手大学工学部の近況(仮)」 講師：安倍正人氏(学科長)
演題「仙台市地下鉄東西線について」 講師：田代良二氏(昭和 55 年電気卒)

懇親会会費 5,000 円(懇親会席上で、昨春秋・今年春に叙勲された方を御紹介し、祝意を表します。
叙勲された方を御存知の方はお知らせ下さい。)

連絡先 総会出欠・叙勲された方の紹介等、会誌「きたかみ」に綴り込みのハガキを使用するか、
下記事務局宛電話、FAX 又は E-mail 等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会事務局(岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科内)

長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381

E-mail osada@iwate-u.ac.jp

木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488

E-mail kimura@cis.iwate-u.ac.jp

柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253

E-mail t.k-yngbs@nifty.com